

その人、
田池留吉

第四卷

(ホームページより)

の南北、11010年十一月から11011年二月までに、田池先生のホームページ
(<http://www13.ocn.ne.jp/~utamate/>) に掲載されたものだ。

九三、私は、自分の死後を思います。死んだ私に、今思いを向けてみます。
死んだ私が語ります。

私は、比較的早く自分が肉を離したことを知ります。心で感じます。
肉を離したあとの私。肉を離したということに恐怖の思いがあるか、不安の思いがあるか、
そういうことをふと思いました。

しかし、私の中には恐怖も不安もない。ただ私はもう肉がない、そのことをはつきりと
心に感じ、そうした瞬間、私の中に、肉を持つていたときにまだしつかりと見れていなかつ
た心の苦しさ、エネルギー、そういうものが私の中に上がってきます。

しかし、私は、知っているんです。私は自分の中に、本当の温もりがあつたことを知り
ました。どんなに私の心が苦しいと訴えてきても、私はその温もりを向けることができる。
温もりの自分を信じる思いが強い。いいえ、温もりが私だと私は私に伝えていきます。

私は、心の中から思いを出していきます。温もりの私は、その思いをしつかりと見つめ
ていきます。

私は、今、肉を持つています。肉を持ちながら私は死後の私を思います。死後の私が私に語つてくれています。

私は肉がなくても、今と同じように、心を向けることができるのです。心の向け先を知っているからです。私は私を向けていきます。そうすれば、私の中から温もりが届きます。その温もりで私は私を思えばいいのです。

「私は、今と同じ。私は温もりです。私は温もりです」。そのように死後の私が伝えてくれます。

「私は温もり。心の中にある私に心を向けなさい」。そのようなメッセージを私は受けていきます。

そのメッセージは、とても優しくて穏やかな私を感じさせてくれるのです。私はその思い通りに、温もりの私に心を向けていきます。私のすることはただ温もりを思うだけ。そうすれば、私の中がどんどん広がっていくのを感じるんです。

その広がりの中から、さらに聞こえてくるんです。私達の思いを聞いてくださいと。

私は、どんどん思いを聞いていきます。温もりだから、心が広がっていくから、どんど

ん思いを聞いていけるんです。苦しくもありません。ただ思いを聞いて受け入れていく。包んでいく。私はそれをやり続けます。

そうして、私は、「温もりが私だと伝えてくれる声を信じていきなさい。もっと、もっとと信じていきなさい」とメッセージを受けていきます。

「広がりのあなた、温もりのあなた、ともにあることが喜びです」。私はそのようなメッセージを受けながら、存在しています。

私は死んでもなお、メッセージを受けていける。今、私は自分の死後を語っています。

田池留吉、アルバートのほうに、しつかりと心を向けることができるることを確認します。

九四、私は肉がなくても、セミナーができます。つまり、田池留吉、アルバートと学びます。肉がなくても、田池留吉、アルバートとの対話ををしていきます。

私はあなた、あなたは私。このことが今よく分ります。一つ、一つだから、私は私を思い、

私は温もりで私を包んでいける。それが、田池留吉、アルバートとの交信。田池留吉、アルバートと心を通じ合わせていける。肉がなくても私は私なんだ。私は、こうして自分を見続けるんですね。

そうです。あなたは今、肉がありません。しかし、こうして私と対話できるでしょう。私はいつもあなたに語りかけています。あなたにメッセージを送っています。いいえ、メッセージというよりも、もつとストレートなものです。今、私達には肉がありません。それだけに、それは、心と心を通じ合わせていける、ストレートにそれを感じていける喜びでしょう。

ああ、私は私を思い、響いてくる思いにこの優しさと温もり、安らぎを伝えていけばいいんだ。私はただそれをしていけばいいんです。

肉というものを持たずに、自分を感じ、自分を見つめ、自分を包んでいく、その作業ができる。だから、あなたは肉を持たずに、あと一度の転生を待ちます。あなたは肉を持たずには、今、今世でいう自己供養を進めています。

心の中にどんどん語つてくる思い、暗い波動、苦しい波動、救つてください、助けてください、教えてくださいという思い、その思いをどんどん聞いて受け入れてください。恐怖はないでしょう。不安もないでしょう。苦痛もないでしょう。ただただ喜びで受け入れていいけるあなたです。そのあなたを、私は感じています。

どうぞ、私を感じ、あなたを感じ、その思いをどんどん受け入れていってください。肉のない間、それをやるのがあなたの仕事です。

田池留吉、アルバート、私はよく分ります。今、私は肉がないけれども、私の中の温もり、優しさ、広がり、私を私が包んでいいける喜びを感じています。肉がなくても、私はこの作業をやり続けていくことができる。

田池留吉、アルバートのほうに心を向け、どんどん私は私を受け入れていくことができることが喜びだと伝えてくれる。

はい、そんな私を感じています。ああ、こうやって、私は肉のない間、自分を受け入れていくことをしていくんですね。このエネルギーが、意識の世界へ流れていくことを私は感じます。

そうです。私を思い、あなたの中の思いを聞いていく。私からまたメッセージが来て、あなたの中の温もりが増していく。私達は一つです。私達はあなたの内で、このメッセージを送っています。

あなたの中の温もり、その温もりですべてを包んでいくことができる。あなたは広い、広い、どこまでも広がっていく存在。それが私、それがあなた。私達は一つです。

私はこのようにして、田池留吉、アルバートとの交信をしていきます。自分の中の温かさ、広さ、温もり、そんな私とともに存在していける喜びを心に広げていきます。それが私の死後の世界です。死後の世界は特別な世界ではなかった。今、私は肉のない私を感じています。ずっと、どこまでも続していく中にただ私があり、その私が自分を思い出し、自分に思いを向け、喜びと安らぎを広げていけることができる、それを確信できれば、それが私の喜びなんです。肉があつてもなくとも、私の喜びは、変わりはなかつたんです。今、私はそう感じています。

九五、私は私を思えること、それが喜びです。肉があるときはもちろん、肉がなくても、私は私を思える。私が私を思えば、私の中は広がっていきます。

私は自分を知っているからです。温もりの自分を信じているからです。

温もりの私が私だと、この心の中にしつかりと感じているからです。

私が私を思える、その喜びを、今、心に感じています。

田池留吉、アルバートと呼べば、私は私に応えてくれます。

柔らかな波動の中に生きている私を感じることができます。

この柔らかな波動の中で、私は私を語つていけばいいだけです。私には何もありません。ただ安らぎの世界が広がっていきます。こうして、私が私を語り、私が私を思える、その喜びが広がっていきます。

私の死後の世界は、もちろん、自分のエネルギー、過去に培ってきたエネルギーが、ともに心に上がってくるけれども、それ以上に、今世、私が心に広げてきた優しさ、温もり、喜び、本当にすごい意識の世界が広がっていきます。それが私。それが私の世界です。

私は私の世界で、私を充分に感じていきます。最後の転生まで、私は私を充分に感じて

いけます。それが私の現段階です。

今、私は私を語っています。はい、嬉しいです。この現実をしっかりと受け止め、さらなる勉強を進めてまいります。

九六、私の死後の世界より、私に語ってくれました。

今世、肉を持つて学ぶ私の学びのハードルの設定は高い。私の思いを感じるほどに、肉はそう思うことだろう。

しかし、それほど、今世の時間は大切な時間だということだ。

私の今の肉は何のためにあるのか。

私をしつかりと知り、肉のない後もしつかりと自分を見つめていけるようにその肉がある。肉は可能な限り、私の思いに沿って存在していくよう。肉はボヤボヤしないで。

しかし、肉はいつも通り、ゆつたりと過ごせばいい。身体をゆつくりと休めて、しかし、

心の針はいつも、田池留吉、アルバート。私は肉にはそれだけを求めている。

肉があれば、食べなくてはならない。寝なけばならない。それをしなければ肉は維持できない。しかし、意識だけであれば、そんな必要はない。寝ても覚めても自分だけがある。自分を見つめて、感じていくだけ。そして、それができることが喜び。四六時中、自分を見つめて、感じていける。こんな喜びはない。

肉を持つてゐる間、肉だけに生きてゐる人達は、自分の現実を知らない。自分が死んだということにもなかなか気付けない。死んだのかなと思った瞬間、自分の現実が覆いかぶさつてくる。間違いなく覆いかぶさつてくる。そして、それが自分だなんて分かるはずがない。固まつていくよりも、自分で自分を閉じ込めてしまう。そして、固まる以外に仕方がない。

肉を持つてゐる間に、自分を供養していなければ、死んでできるはずはない。

今、田池留吉のもとで自分の現実を知ることが、どれだけの喜びなのか。

それぞれが肉を離せば分かるかもしない。いいや、分からぬ確率のほうが高いだろう。

死んでこの世に帰ってきた者はいない。それがこの世の常識。しかし、私は今、確かに語っている。この世もあの世もないことを私は私に証明している。あるのは今、今の一点。今を生きることが私の喜び。私は、今というチャンスをどんどん自分に活かしていく。それが私の喜びだからだ。

九七、死後の学びセミナー

はい、田池留吉、アルバート。心の針を少しでもずらせば、私の中に、暗黒の世界が広がり、私はそのエネルギーに飲み込まれていくような気がします。それは肉を持つているときよりも、はるかに、はるかに厳しい世界です。心の針を向ける厳しさを、今、感じます。

はい、意識だけになつたとき、そうですよ。肉を伴いながら、田池留吉、アルバートに

心を向けるその向け方と、意識だけになつたときの向け方、格段の違いがあります。

絶えず、田池留吉、アルバートに心の針を向けていく。意識だけになつた世界は、それがとても厳しいです。

はい、その学習を、今、あなたはなさっています。貴重な学習です。

肉を持つて呼ぶ田池留吉、アルバートの世界。肉がなく呼ぶ田池留吉、アルバートの世界。心の針の合わせ方、その厳しさを今、感じていただいています。

瞑想を終えて

私のテーマは愛と死でした。今、まさに、その愛と死を自分の中できらに解明できる展開となっています。

私の勉強はそうなつてきています。自分が自分に予定してきた勉強のコース、気付ければそのルートにしつかりと乗つていることを感じます。

肉を持つて学べる時間、本当にありがたいです。

学びに集中できる自分の肉体、環境、すべてがあります。

ひたすら、私は私を見つめていくだけです。色々と自分に試しながら、工夫しながら、楽

しみながら、喜びながら、肉の人生の時間を使つていけることが、何よりの幸せです。

九八、死後の学びセミナー

田池留吉、アルバート。私は、今、自分の意識の世界を感じています。はい、すうつと
思いを向けていつたとき、私が過去から使つてきた思いが、次から次へと出てくるのが分か
ります。

暗い思い、苦しい思い、悲しい思い、辛い思い、責め裁きの思い、我一番の思い、支配
する思い、ありとあらゆる心を使つてきた自分が走馬灯のように流れていきます。

しかし、私は、それをじつと見て感じることができます。

私の中は穏やかに流れていきます。ああ、本当にこんなことがあるんですね。

私は私を、静かな穏やかな中で、見つめられるんです。

はい、見つめながら、私はそのエネルギーによつて、自分を見失うことはない。こうや
つて、静かに自分が培つてきたエネルギーをストレートに感じながら流していく。流しな

がら、私は苦しいどころか、嬉しい思いが広がっていく。優しい思いが広がっていく。

田池留吉、アルバート。私はこうして、自分を包んでいっているんですね。

何だか、これが、今度、私が肉を持つまでの間に自分に準備していること、そんな感じがします。

はい、あなたの中には、しつかりとした信があるからです。温もりが自分だと、温もりの自分とともににあることを感じているからです。

田池留吉、アルバートの波動の中に生きていることをあなたは感じながら、そう、感じながら、あなたがずっと広げてきた暗い、暗い真っ黒な世界を見つめることができる。

それが肉を無くして、あなたが、今、していることです。

自分を自分で包んでいく喜び。穏やかな中で優しい自分に変えていく喜び。それを感じていると思います。

肉を持たない間も、こんなに穏やかに嬉しいんですね。自分を知ることが本当に大切だった。自分の中の優しさ、温もりを知ることが、本当に大切なことだ、今、心に感じます。

あなたは、ただ自分の中の優しさ、温もりを信じ、その思いで、自分をしつかりと見つめていけばいいだけです。

そのエネルギーが仕事をします。大きく、大きくすべての間違つてきたエネルギーを、もとあるエネルギーに変えていけるのです。ただ温もりの自分をしつかりと見つめていければいいだけだつたんです。

田池留吉、アルバート、はい、どんどんどんどん際限なく、私の中に次から次へと押し寄せてくる感じです。しかし、私は、恐怖も不安も何もない。ただただ、どんどんどんどん吸収していく自分を感じます。

はい、吸収していけるんです。どんどんどんどん吸収していける。

今、私は、そんな自分を感じています。これが心が広がっていくということでしょうか。

意識の世界のすごさを感じていると思います。ただ思うだけです。

心の針をしつかりと向け、ただ思うだけです。意識の世界の広がりはすごいんです。す

ごいパワーが流れていきます。吸収していけばいくほど、それが喜びのエネルギーへと変わつていくのです。そのことを私は肉を持つて伝えてきました。

意識の世界は広大です。広くなれば広くなるほど、どんどんどんどん、迫ってきます。はい、すごい勢いで迫ってきます。

ああ、だけど、私は、そのエネルギーに押しつぶされるのではなく、私の中にどんどんどんどん吸収していく、私の中に吸い込まれていく。それが私の中で、温かな思いに変わつていく。これが意識の世界。今、そんなことを感じています。

瞑想を終えて

今、自分の死後の私、つまり、肉がない状態でどう存在しているのか、私は自分の意識の世界に思いを向けています。

死んだらどうなる、どんな状態か。あなたは果たして田池留吉、アルバートを呼べるでしょうか。つまり、自分を本当に心から呼べるでしょうか。自分に思いを向けられるでしょうか。

肉があるときに向けられても、肉がなくなれば向かれないということでは、と思います。

九九、はい、あなたは瞑想をして、自分の死後を語りました。

今一度、自分の死後の世界を思つてみてください。

心の中に、田池留吉、アルバートを呼べるあなたです。どうぞ、しつかりと、心で感じてみてください。

私の意識の世界は、まだこの自分の世界を把握していないほど、私はすごいエネルギーを持つています。

しかし、私の中に、田池留吉、アルバートを呼んでいける私を確認しています。田池留吉、アルバート、すなわち私の中の温もりです。

私は、田池留吉、アルバートを呼んでいける。はい、自分にそのように語つてきました。自分の意識の世界を感じ、そのように語つてきました。

ああ、間違いなく、私は田池留吉、アルバートを呼んでいける。呼んでいけるからこそ、

私は、次元移行へと突き進んでいける意識なんです。

肉を持たずに、私は田池留吉、アルバートとともに存在している時間を過ごします。はい、その時間が私を大きく育てます。そして、再び、最後の肉を持ちます。その肉により、私達は次元移行へ突進していく、その計画を私の意識の世界は立てました。意識の流れが私。私の中で意識の流れがはつきりと示しています。

田池留吉、アルバート、肉を持たずに、田池留吉、アルバートを呼べるか。

はい、呼べます。私はそのように答えます。すごいエネルギーを持つてきたけれど、田池留吉、アルバートと呼ぶ私は、自分の中の温もりをしつかりと信じています。その温もりで、自分のエネルギーを包んでいける。私は、先日瞑想をする中で、自分を語りました。

間違いなく、私は、田池留吉、アルバートを呼んでいける。

はい、私は呼んでいけます。心の中に、田池留吉、アルバートがしつかりと息づいていることを感じています。

一〇〇、私は私の中の温もりを思つて存在していけばいいだけです。

肉を持つてゐる時は、肉の生活を淡淡とこなしていけば、それでいい。瞑想をして自分を思える幸せがあるから、肉も楽しめるし喜べる。

そして、肉がない時は、ただ自分を思うのみ。

温もりの中で自分を思いながら存在できる幸せが待つています。

私は喜び、私は温もり。そんな私の意識の世界との出会いがあつた今世。だからこそ、心を繋ぎ次元移行が実現できる。私が肉を離して、これまでの転生と同じく地獄へまつしぐらでは、次元移行の計画は成立しません。

それが、今、肉を持ちながら肉のない状態を確認したことにより、さらに明白になりました。次元移行は意識の流れ。意識の流れは次元移行。

それをしつかりと自分に伝えるために、今世の肉を持ち学んできたのだから、今の状態は当たり前と言えば当たり前だけど、それが現実のものとなつたことに対して、やはり嬉しさが込み上げてきます。

あと、肉は淡々と瞑想をしながら、生活をゆったりと過ごしていけばいい。意識は心を合わす、向けることを知っているからです。肉で向けようと思わなくても、ふつと思えは通じています。今世、私はその学習をしてきました。幸せな人生です。

一〇一、鈍感な私の心中に、一つだけ、ずっと前から確信めいた思いが伝わってきたことがあります。それは私の転生は、あと一回だということです。

なぜかそれだけは、ずっと以前から私の心中に、はつきりと伝わってきた思いでした。しかし、なぜだかは分かりませんでした。

やがて、私は、アルバートの意識が肉を持つてくるまで、肉を持つ必要がないから、その間、転生はしないんだと感じてきました。

それでは、なぜその必要がないのかということが、最近、自分の死後の状態を心で知ることにより、分りました。

それは、私は、肉を持たずとも、次元移行の準備を整えることができるからです。

私は、私の意識の世界は、肉を持たない間、はい、学んでいきます。私は学んでいきます。私は、田池留吉、アルバートの意識とともに学んでいきます。嬉しいです。肉を離したあと、肉のことはもう要らないんです。

ただ、私の意識の中で、私は、田池留吉、アルバートの世界と交信します。心の中に、田池留吉、アルバートを呼んでいく私があります。

その世界を、私は自分の中に広げていきます。肉を持たない間、私は、自分を大きく育てていきます。

ああ、意識の世界は素晴らしい。本当に素晴らしい喜びの世界。そんな世界を私は、肉を持たない間、心の中にしつかりと育てていきます。準備をしていきます。

二五〇年後の肉を持つ準備をしていきます。はい、次元移行へまつしぐらの私の意識の世界。はい、肉を持たない間、しつかりと学んでいける。私は、いわゆるセミナーをしていきます。

田池留吉、アルバートと交信し、私は私の中を見ていきます。

すごい、ストレートに私は私を見ていく。すごい、すごいです。私の中は、どんどんどんどん変わっていくを感じます。はい、その意識の世界が、今度、最後の肉を持つんです

ね。はい、とてもとても嬉しいです。

私は肉を持ち、ある期間、肉の思いで苦しみますが、アルバートの意識と出会った瞬間に、自分が噴き出すのは、この肉のない間の私のセミナーがあるからです。私の勉強があるからです。私は、それを今、心に感じています。

肉のない間、私はしつかりと自分を見つめていける、はい、セミナーをしていけることを感じています。嬉しいです。

ストレートに自分を感じ、田池留吉、アルバートを感じ、その中で喜びを広げていく。自分が大きく広がっていく。その意識の世界をはつきりと感じていく。それがとても、とても嬉しいです。

最後の肉は、私のこの中のエネルギーを噴射し、次元移行を確実に遂行させていくために用意しました。肉としても、最高に喜びです。その前段階が、今の中でした。

一〇一、肉を持たないほうが、自分をストレートに見て感じていくことができる。ブラックをドーンと感じても、それ以上に温もりをドーンと感じる。そして、その温もりでどんどんブラック

ツクを包んでいく、受け入れていく。それが肉を持つていなから、ストレートにしかも効率よく進めていくことができる。

来世の肉を持つまでの間、私は、こうして存在しています。

私の中の温もり、つまり、田池留吉、アルバートの波動とともに私は存在していけることを確認しています。そのように私の意識の世界の学びを、今世の肉を持つことにより進めてきたと言えます。

肉を持つて自分を知る学びから、肉を持たずとも自分を知っていく学びへと、意識の世界の進化を感じます。

次元移行まであと一度の転生を残すのみとして、今世の肉を自分に用意した私の思いを、これからはさらに、本当に大切にしていこうと思っています。意識の世界を知れば知るほど、その思いが強くなります。

肉を持つてきた今世、肉を持つてくる来世、肉は、ともに次元移行のためにのみあつたことを、私の意識の世界は伝えてきます。

田池留吉、アルバートと生きる意識、今世、肉を持ちながらその確認ができるて本当によかつたと伝えてきます。

一〇三、はい、私は永遠に存在する意識、エネルギー、生命。ああ、このことを、今世肉を持つて心に知り得たことが、本当に喜びです。

今世も、二五〇年後の来世も、眞実の道を歩む私にとつて、一通過点に過ぎないことを心で知りました。

素晴らしい時を経て、私は、眞実へ続く道、永遠の道を歩み始めています。その道は永遠と続いていきます。喜び、幸せの道は私だつた、そのことに今世出会つたことを、本当にありがとうございます。

私は永遠に続く生命、エネルギー。すごい世界を心で感じています。嬉しいです。嬉しいです。私の中で、喜びが大きく、大きくなつていきます。

はい、肉を持っているときも、持っていないときも、私は私のこの道を淡々と歩み続けていくだけです。私は永遠に存在しています。どんどんどんどん私は、私の意識の世界の中へ進んでいきます。その道筋を、私は、自分の中ではつきりと感じた今世でした。嬉しいです。

お母さんに肉をいただきながら、自分を顧みることなく過ごしてきた、たくさんの時間と空間の中で、ようやく私は自分の中に、本当に永遠に続く自分を見つけました。ありがとうございます。それが、田池留吉、アルバートとともに歩く道。この道は永遠に続きます。私は進化していきます。進化していく意識。はい、それが今、心に感じられてとても嬉しいです。

瞑想とは思うこと。思うことは喜び、思えることは喜び。だから瞑想は喜び。瞑想はただただ喜びの時間。

瞑想が変わりました。確実に変わりました。思うことは喜び、思えることは喜び、そのような幸せな時間をいただいています。

一〇四、肉は平凡です。肉の心は狭いです。しかし、私の意識の世界はすごいです。少しもふれていないことを感じ、ただただ嬉しいです。

肉を離した後の私を思うとき、やはり私は嬉しい。喜びが突き上がつてきます。

はい、たくさんの中、UFO達よ。心に語つてくるUFO達よ。私はそのUFO達を心に感じています。

この心から呼びかけます。UFO達の思いを心に感じています。ああ、嬉しいです。地球上に肉を持つて、このような嬉しい再会があるとは思いませんでした。

ありがとうございます。ありがとうございます、UFO達よ、ありがとうございます。

心にどんどん語ってきなさい。私はアルバートを伝えます。喜びの思いを伝えます。心の中の温もりをあなた方に伝えます。あなた方の中に温もりがあることを、私はしつかりと伝えます。

私は肉があるときも、ないときも、いつもあなた方と交信します。そして、私達はともに次元を超えていくことを伝えます。どうぞ、語りかけてください。私は心を開いて待っています。はい、私の心は大きく開いて待っています。全開です。私の中には温もりがある、お母さんの喜びがある、母なる宇宙を目指して私達が帰っていく道を見つめ、今存在しています。宇宙に呼びかける私の思い、あなた方に届いています。

どうぞ、どうぞ、真っ黒な世界でもいいんです。どんなに暗黒に沈んだ世界でもいいん

です。私達とともに帰ろうと、私は呼びかけていきます。私の心は全開していきます。これからますます全開していきます。

肉を持つているときは、その肉の思いで少し、それが小さくなりますが、私は肉を持たないときは、心は本当に、広がって、広がって、広がっていくのが分かります。

それが肉を持たずに存在している私の喜びです。

私はこうして、あなた方を受け入れ、もう一度だけ肉を持ちます。その肉とともに、私達とともに意識の世界を変えていける喜びを、今感じています。

はい、この地球の内外から喜びが爆発していきます。あなた方の思いを私は受け取っています。宇宙へ、宇宙へ私の思いが広がっていきます。心の中にその思いが広がっていきます。田池留吉、アルバート、本当に今世の出会いをありがとう。

私は喜びです。はい、私は永遠に存在する意識、エネルギーでございます。

一〇五、あなたの肉は、今はもうないんですよ。しかし、あなたは語れます。はい、あなたは語れます。

私の肉はない。私の肉はもうありません。私はもう肉はありません。肉はない私に思いを向けてます。

はい、私は尋ねます。あなたは寂しいですか。肉がなくなれば、あなたのの中にはどんな思いが上がりますか。

はい、私の中に、色々な思いが出てきます。私はたくさんの思いを抱えていることを感じます。私はこの思いとともににあることを感じるんです。しかし、それがとても嬉しいんです。なぜならば、私は私を知りたかったからです。はい、肉を持っているとき、私は私を感じてきました。しかし、私は肉を持つていない今のほうが、自分をもつと、もつと感じることができることに喜びを感じています。私を感じていてばいくほど、その中から、私に温もりを伝えてくれる私を感じるからです。

私は、田池留吉を心で知っていると伝わってきます。だから、私は温もりのほうに心を向けられるんです。

自分を知つていけばいくほど、温もりの私と出会つていける。私にはそれが喜びなんです。

嬉しいんです。

はい、肉を離せば、自分のエネルギーが覆いかぶさつてくるのではないですか。どんな状態でしようか。

はい、確かに肉がないと分かった瞬間に、私の中にすごいエネルギーの渦を感じます。肉を持つていたときは比べることができないほどのエネルギーを感じます。はい、しかし、そのエネルギーはもはや、私の中では苦しみでも恐怖でも不安でも何でもありません。

ただ私はそのエネルギーを感じているだけです。そのエネルギーから伝わってくる思いを、私は自分の中に吸収できるんです。どんどん吸収していく私が今あります。

その吸収しているエネルギーは、はい、どのような感じでしょうか。

はい、そのエネルギーのほうに思いを向けたとき、私の中に優しい、優しい温もりが届けられます。お母さんと呼んでいた温かな優しい柔らかな世界。そのエネルギーで私は私を

どんどん吸収していくのが分かります。

私は心中に、お母さんを呼んでいます。はい、田池留吉、アルバートという思いも片時も忘れはしません。なぜならば、私は田池留吉、アルバートと一つだからです。はい、すごいエネルギーを感じても、私の中には、苦しみも迷いも、寂しさも恐怖も不安も何もない。ただただこのエネルギーを私は感じ、それを包んでいける私を感じ、喜びが大きくなっています。私が広がっていくのを感じます。

はい、では、私の肉のない状態は、今、私がこのように感じている世界とほぼ同じなんですね。

はい、そうです。しかし、ブラックも喜びも、もつと強烈にストレートに響いてきます。だから、私は私に伝えています。

肉を持っている間に、ただただしっかりと心を向ける瞑想をなさつてください。

一〇六、死後の私より。

お母さんと呼んで自分を見つめるこの空間に私があつたことは、今の今まで一度もありませんでした。しかし、私は確かにお母さんと呼んでいます。

お母さん、お母さんと呼んでいます。お母さんを呼ぶたびに、私の心に温かいものが流れています。はい、田池留吉、アルバート、その思いが心に感じられる。

こんな私が今存在しています。この肉を離した後、私はその世界を今、感じています。不可思議でなりません。こんな私が今ここにあるんです。

私の中に温かい優しい思いがただただ静かに、静かに流れていくんです。私は私を見つめることができる。こんなにゆつたりとした思いで私は私を見つめることができる。ああ、私は今、そんな自分を感じています。

そして、今度肉を持つてくる私に、私はメッセージを送っています。

どうぞ、私の思いをしつかりと思い出してください。そんなメッセー‌ジを来世の肉に向けて発しています。

肉を持つとき、離すとき、そして再び肉を持つとき、それらは点に過ぎません。私の中

は常に、常に、連続してあるんです。私は途切れることなく流れています。肉を持つ準備をしています。来世の肉を持つ準備を、私は今、しています。

一〇七、死後の私より。

はい、私は確かにエネルギーの渦の中にいます。しかし、何も不安も恐怖も何もないということを、私は、語りました。本當です。私の中に凄まじいエネルギーを感じるのに、私は不安も恐怖も何もないんです。ただ静かに流れている私があります。

私の中に、その静かな中から温もりが突き上がつてくるんです。温もりが突き上がつてくる。嬉しい、喜びが突き上がつてくる。

はい、本当に私は、温もりの自分で凄まじいエネルギーをしつかりと包んでいけることを確認しています。

心を向けてみました。たびたび心を向けてみました。この肉をなくした後の私の意識の

世界、私がどのような状態であるか、心を向けてみました。やはり、私はこのエネルギーに押し潰されることもなく、飲み込まれることもなく、ただそれが嬉しい。私が嬉しい、それが嬉しい、ただそのように返ってきます。

私は、自分の中の思いを聞いています。温もりの私をしっかりと広げている私があります。

この思いを今、肉を持つている私に伝えています。

あなたが今、心を向ければ向けるほど、私の中は広がっていくのです。

私は、ただただ前を向いて、これから時を見つめて存在していくだけだと肉に伝えています。

この肉に伝わってくる思いです。

はい、私には、大きな仕事があると伝わってくるんです。次元移行は私の大きな仕事です。喜びを伝えていく仕事です。私は今世、そのために肉を持ったままで、来世、そのために肉を持つてくると伝わってきます。

はい、私は、二五〇年後に肉を持ち、そして、その肉を持ちながら、次元移行の仕事をし、再び肉を離した世界から、今語っています。

私は喜びの自分を感じています。次元移行後の自分をしつかりと心に感じられる私があります。今、私は私のこの肉に、次元移行を果たした後の私をしつかりと思いなさい、そして、その方向に思いを向けて、瞑想をする時間を持つてくださいと私は私に伝えます。

心の中に喜びが大きくなっています。次元移行を果たす喜びです。次元移行は、あなたの本当の喜びを心にしつかりと感じるその瞬間です。

もうすでに次元移行は始まっていることを感じているでしょう。

そうです。次元移行はすでに始まっています。

二五〇年後に始まるのではなく、もうすでに次元移行は始まっています。

だから、あなたの中の喜びは大きくなっています。

次元移行を果たした意識達がどんどんどんどん伝えてくるからです。そして、まだまだ暗黒の世界もどんどん伝えてきます。

その意識の流れ、その流れをしつかりと心に感じられるあなたです。

瞑想をする時間は楽しいでしょう。瞑想をする時間は、自分をしつかりと感じる時間だ

からです。次元移行はもうすでに始まり、次元移行はもうすでに果たしています。その流れをしつかりと心の中に感じられる喜びを味わってください。

UFOを呼んでごらんなさい。

私の心中の広がりを感じます。UFO達により、私の心はどんどん広がっていきます。UFOは私の心を広げてくれます。

懐かしい思いとともに、私の心がどんどん広がっていきます。

UFOは私の仲間。UFOは私自身。UFOを思うことが嬉しい、嬉しい、嬉しい。

UFOです。はい、あなたの肉を離したあと、私達とともに存在します。私達はあなたと交信します。この喜びを伝えたい。

はい、私達は喜び、喜びの、喜びのUFOです。凄まじいエネルギーを心に蓄えてきたUFO達に伝えます。温かい温もり、優しい、優しい温もりのUFO達を心の中に伝えていきます。

肉を離して喜びが溢れてくる。それは私達UFOと交信するからです。私達UFOは、田池留吉、アルバートと通じています。その世界は、母なる宇宙と通じています。どんどんUFOが語ってきます。UFOが伝えてくれます。優しい、優しい温もりを伝えてくれます。温もりをしつかりと見つめていってください。はい、あなたの心の中に温もりをしつかりと見つめていってください。肉を離しても、あなたは喜び、喜び、喜び、そのように伝えていきます。

一〇八、田池留吉、アルバート、本当の私とともに歩みを進めていく時間が約束されています。
私は私と語り、私は私の中で喜びの時間を持つてきます。

永遠に続く私の時間、本当に嬉しいです。温もりの私に、真実の私に、より近づいていく第一歩を、今世の肉を持つて踏み出しました。

私にはそれがたまらなく嬉しいです。

肉の喜びと幸せを感じています。肉を持てたからこそという喜びと幸せを感じています。

肉を持つたからこそ、私は私と出会いました。田池留吉、アルバートと出会いました。

私は自分に計画してきた道筋を淡々と歩いていく喜びを感じています。すべては予定されてきたこと、そして、その予定してきたことが見事に遂行されていくことを喜んでいます。どこかに必ず真実がある、その真実と絶対に出会ってやるぞ、この思いが今は本当に現実のものとして私の中に確立していることは、何にも勝る喜びです。いいえ、それしかなかったのです。ただ生きて適当に人生を楽しみ喜んでいくことには、もう私は耐えられませんでした。自分を裏切り続けることは、もう絶対にしたくはありませんでした。

一〇九、自分の死後、肉を離したあとの状態を感じておられますか。

その勉強を、どうぞ、ご自分でなさつてください。

死後の自分の状態が、心で感じてくると、肉を持つてはいる今、自分がどんな学び方をしなければならないのか、つまり、学びに対する自分のとらえ方の甘さ、意識の世界のとらえ方の甘さ、いい加減さ、そういうものが分かつてくると思います。

今も全く変わりはありませんが、死ねばもちろん、自分ひとりの世界です。肉があると

きは、周りの風景や、周りの人達の言動、つまり、肉そのもので、自分の世界を如実に感じていくことは難しいです。

呼べども、叫べども、ただひとり、自分の世界にある自分に対して、果たして、今、あなたはどのように対処できるのでしょうか。何を伝えることができるのでしょうか。何も伝えられないではどうしようもありません。

健康を損ねて、あるいは、肉的に困った状況を打破するために、他力的に学びに繋るのではなくて、もつと、前向きに、もつと明るく、自分の現実と向き合っていってください。

一一〇、厳然と流れる意識の流れ。その流れに逆らつて幸せは感じられません。

その流れは自分自身だから。自分に歯向い、自分に逆らい、自分をないがしろにするエネルギーは、当然苦しみとなつて、自分に返ってきます。

それが自然でした。

何が苦しくて、なぜ苦しいのか、長く私の中で疑問でした。

しかし、苦しみも喜びもみんな私の中にあつたことを知り、どうすれば苦しみが苦しみ

でなくなるのかを、私は自分の中に答えを見つけました。

自分を信じるということさえも、全く見当違いにとらえてきたことを含めて、まさに今
という一点、今世という時間は、大きな一点であり、絶対必要な時間でした。

淡淡と自分を見つめていける時間がこれから永遠と続していくこと、それが自分自身だ
ということ、それは本当にすごい喜びなんだと感じます。

一一、田池留吉を信じていますかという文言を見たとき、愚問ですと私は答えました。

それから、「そうですね。田池留吉を心から信じています。信じているというよりも、私は田池留吉、田池留吉は私。私達は一つ。ああそれは、私の中ではつきりとしています。信じるも信じないも、一つは一つ。その揺らぎは全くありません」と続きました。

そして、田池留吉を思い瞑想をしました。

アルバート・ロックフェラー。私はあなたの波動を感じて嬉しいです。幸せです。あり
がとうございます。

この心の中から、アルバート、あなたを呼んでいます。今、私は心の中にあなたを呼んでいます。

アルバート・ロックフェラー、心の中に響き渡る大きな、大きな喜び。その中で私は、あなたとともに歩んでいく道筋を感じています。今、肉を持ち、あなたとともに歩んでいます。

田池留吉、今、あなたとともに歩んでいくこの道。

アルバート・ロックフェラー、あなたとともに歩むこの道、私の中で大きな喜びとなつて広がっていきます。

アルバート・ロックフェラー、あなたを思うと、涙が溢れ出できます。中から突き上がってくるものがあります。嬉しさ、喜び、ありがとうございます。言葉にすればそういうところですが、やはり言葉にはできない。ただ私の目から涙が溢れ出できます。

あなたのほうが少し早く肉を持つんですね。そんな思いを感じながら瞑想を終えました。

一一一、田池留吉の目を見て瞑想をします。

私の中の目を開いて、田池留吉の目を見ます。

はい、遙かなる宇宙からやつてきた私の中の宇宙。はい、その思いが、ああ、心に感じられる。私は、田池留吉、アルバートとともに、あの懐かしい、懐かしい宇宙へ帰つてまいります。

田池留吉、アルバートの波動の世界へ、私の心はどんどんどんどん進んでいつていることを感じます。

心の中に田池留吉、アルバートを呼んでごらんなさい。

あなたの目を見て、私は答えます。

はい嬉しいです。心の中に田池留吉、アルバートの宇宙が広がつていく。アルバートの宇宙、宇宙、宇宙。

はい、心の中にエネルギーを感じます。宇宙は喜び。喜びの宇宙を思います。はい、私

の中に喜びの宇宙が広がつていきます。

今、肉はありません。しかし、今このように心で感じる世界があります。私の中の宇宙は広がつていきます。肉を持つていなくとも広がつていく。肉を持つても広がつていく。肉は何だろうかとふと思します。ああ、そうです、肉はこの宇宙をより感じるためにあるものだ、そのように感じています。そして、肉を持てば、心の中にざわめきも起こります。とてもとても心の狭い私を感じます。はい、それがとても苦しいと感じます。しかし、私はまたふつと私の宇宙を思います。私の宇宙は広がつていきます。心は広がつていく、私の意識の世界は広がつていく。はい、肉を持った苦しみが心に上がつてきます。しかし、私はまたふつと自分の宇宙を思います。

ああ、こうして、私は肉を持っている間、苦しみを感じながら、ふつと私の宇宙を思う。そして、肉を離したとき、それこそまさに、凄まじいエネルギーとともにこの広い、広い宇宙を感じていく、その喜びが待っています。

私の中に宇宙は広がつていきます。ああ、本当に遙かなる宇宙。喜びの宇宙は私を受け入れてくれている。待つています。母なる宇宙へ、ああ、私の思いは届きます。

これから、二五〇年後、そして、次元移行、その先へと私は心の中を語ります。語りたい、語りたい。アルバート、私は心を語りたい。もつと、もつと心を語りたい。アルバートに向けて心を語りたい。

ともに生きていく、ともに存在していく、ともに歩いていく。

ともに、ともに永遠に、いつまでも、いつまでも、私達は一つ。一つの世界を、今、心に感じ、それをもつと、もつと広げていきます。

肉を外したあと、この世界を広げていき、私は二五〇年後の肉を持ち、この喜びを広げていきます。そして、二五〇年後の肉を離して、それこそ、私は、喜び、喜びの世界へ心を広げていきます。

私の世界をともに、ともに歩いていきましょう、そう、私はそんなアルバートを感じています。

一二三、あなたは幸せですか。私は幸せです。

私は私を思うとき、幸せだと実感します。心の中に思いを向けていけば、私は温もりを

感じます。私は広がっていきます。

これが私だ、私の現実だと実感しています。私が私に向けて異語を発します。とても嬉しい時間です。異語で語り合っています。優しい、優しい温もりが、心に響き伝わってきます。田池留吉、アルバートが語ります。これが私の世界なんだ、私が私に語り、私が私に応える、その喜びを広げています。

瞑想は本当に喜びの時間です。思うことが喜びです。瞑想をして田池留吉、アルバートを感じる、自分を感じる、波動の世界を感じる。ふつと思いを向ければ、ただただ嬉しい、幸せです。

肉を本物として、肉しか信じられなかつた私が、よくここまでくることができたと思います。予定通りとはいえ、私は私に驚いています。

今世の肉を持ち、私は私を初めて学ばせていただきました。もちろん、私の勉強はさらに続きます。意識の世界のすごさ、素晴らしい力を心で学んできた私は、さらに自分の勉強を進めていきます。私のエネルギーはそこに集中していきます。外野のざわめきは、文字通りざわめきです。私には呴きにしか聞こえないでしよう。

やればやつただけ、その成果は大きいです。実感として心に伝わつてくる成果は大きい

です。意識の世界は無限大。無限に広がつていき、尽きることなく温もりが湧いて出てくる意識の世界。肉を持つて知り得たことは本当にすごいことです。

一一四、私の宇宙を思います。

私の中の宇宙を思います。宇宙に心を向けてます。

はい、宇宙に思いを向けることが喜びです。宇宙を思えることが喜びです。

凄まじいエネルギーは苦しみではなくなりました。ただただ嬉しい、喜びです。

温もりを伝えてくれるエネルギーです。私はこのエネルギーとともに存在していることが嬉しいです。そのエネルギーが田池留吉、アルバートを心の中に広げています。すべては心の中にありました。田池留吉、アルバート、私の中の温もり、喜びが今、伝わってきます。

私はこの宇宙達と、これからともに、ともに存在していけることが喜びです。はい、私は肉を持たずに喜んでいけます。肉のない世界は喜びの世界です。私の中に暗黒の宇宙が伝

わってきます。しかし、それは暗黒の宇宙ではありません。私は喜びを温もりを返していける。喜びと温もりで包んでいく喜びが感じられます。

ただただ、広い、広い、広い、広い、広い、温かな温もりの中に私があることが嬉しいです。

田池留吉の世界、アルバートの世界、その思いの世界を私は心に感じています。感じれば感じるほど、心の中が広がっていきます。優しい温もりの中へ私の心は広がっていきます。私は私の世界がとても愛しいです。私は私の世界をどんどん広げていけることがただただ喜びです。

田池留吉、アルバート、心の中に伝わり響いてくる優しさ、波動の世界。私はこの波動の中に生きています。存在しています。

だから、私はどんどん宇宙に思いを向けていけるのです。どんどん宇宙を思つていけます。私の中のエネルギーが温もりに、喜びに変わっていくことが感じられます。すごいです。はい、肉を持たない世界のほうが、私の喜びはストレートに響いてきます。はい、すごいエネルギーがストレートに喜びへ、温もりへ帰つていく喜びを感じます。

はい、はい、私は二五〇年後の肉だけで、もう充分です。私はこの喜びをこれから大きく、大きく育てていけることを知っています。二五〇年後の肉は、ただただこの喜びを伝えていく肉なんです。

すごいエネルギーを心に蓄え、肉を持ちます。私の肉は、ただただ次元移行を伝えています。二五〇年後の肉は、ただただ次元移行のメッセージを伝える肉です。

私はそのように、今世の学びを進めてきました。はい、私の予定通りです。私は次元移行を伝えるために、二五〇年後に肉を持つてきます。その肉だけで、私にはもう肉は必要ありません。

私の意識の世界は、その二五〇年後の肉を最後に、心から喜びの道を歩み続けます。田池留吉、アルバートという私の中の喜び、温もりのエネルギーとともに、永遠に歩き続けていく、存在していく私を感じます。

瞑想をすれば、その私のこれからが如実に感じられる。心に響いてきます。私は喜び、私は温もり。心の広がりは永遠に続きます。

一一五、今の肉を置いてから

肉のない私は、私をただひたすら見つめていく時間を用意しています。一二五〇年後の肉を持つまでの間、私は、肉を持たず、ただひたすら自分を見つめる時間を用意しています。思えば通じる世界、田池留吉、アルバートを呼んで、私はただひたすら私の中を見つめています。

心にどんどん通信してくる宇宙達とともに、私は存在しています。その意識達は、私の中にどんどんどんどん伝えてくれます。

本当に苦しかった。待っていたこの時を。

どれだけ待っていたかを切実に伝えてくる意識達を、私は心で受け入れ、ひたすら、肉を持つその時を待ちます。

私の中は、ただひたすらこの意識達とともに、はい、私の中の温もりを心に広げていきます。その時間が私には必要です。肉を持たず、私は私の中を、ただひたすら見つめていく。それは二五〇年後の肉を持ち、次元移行という意識の流れを確実に、着実に、効率よく進めて

いくためです。

宇宙からたくさんの意識達がやつてきます。

今も、もちろん、私の心はその意識達の思いを受けています。そして、私はその意識達とともに、二五〇年後の肉を持つんです。

苦しかった。哀しかった。辛かった。闘いと苦しみの中どれだけ自らを落とし込めてきた意識達があつたか。

その意識達が心の中に、ひたすら温もりを思い出していく、温もりの自分達を蘇らせようと、必死で訴えています。

私は肉を持たず、その意識達にどんどん思いを伝えます。

二五〇年後の肉を持つまでの間、私は私の中で、ただひたすら学んでまいります。田池留吉、アルバートとともに歩んでいきます。

私はそれが嬉しくて、嬉しくてたまりません。今世の肉を通して、私の意識の世界を、ようやくそこへこぎ着けました。

心から、ありがとうございます、出でてきます。

田池留吉、アルバートの波動に目覚めた意識。その意識の喜びをこれからこの心の中で、

たくさん、たくさん繋いでいきます。肉という覆いがない分、効率がいいんです。だから、喜びは倍増します。喜びのエネルギーは倍増していきます。となれば形の世界はどうなつていくのか、その時間が地球時間でいう二五〇年です。

はい、私には、その喜びが待っています。だから、肉を持つている今は、私はただひたすら、田池留吉、アルバートを思い、自分の中の温もりを思い、瞑想をする時間を持つていくだけです。すべては次元移行という計画の中です。そして、それが私の喜び、それだけが私のなすべき仕事なんです。

肉を持つ、肉を持たないにかかわらず、私は、田池留吉、アルバートを心に呼びます。私の中に伝わってくる波動の世界。その波動を私の心はストレートに受けていくでしよう。

一六、お母さん、今ここに肉を持っていることが本当に嬉しいです。本当にありがとうございます。

私は私の現実と出会っています。私の今と出会っています。嬉しい今です。幸せな今です。

私は喜びで温もりで、本当にずっと永遠に続く私であることを知りました。

今世肉を持ち、私は私を知りました。嬉しいです。心の中に喜びが沸き起こってきます。私は私をこれからもどんどん知つていくことを感じます。田池留吉、アルバート、温もりとともに歩みを進めていきます。

お母さん、ありがとうございます。肉を持つて、ここにこうして存在していることがただただ嬉しいです。私は何も望みません。私は本当に幸せです。心の中に自分自身を感じるからです。私の世界は本当に喜んでいます。私は、この私を知るために、生まれてきました。そして感じました。嬉しいです。心が広がっていきます。

肉はすでに整えられています。肉の時間を大切にしていきます。

肉の時間、精一杯私を見つめることに使つていきます。幸せな人生です。

自分を見つめることを知った人生は幸せな人生です。

もちろん、意識の世界は言うまでもありません。私の意識の世界、私自身はすごい喜びを感じています。初めから幸せでした。

まだまだ、田池留吉の世界をほんの少し垣間見たところです。しかし、私は今、その世界を心に広げ始めています。そして、これからの時間、私は永遠にこの世界を心に広げてい

けること、それを知つたから幸せです。

田池留吉、アルバート、その波動の世界に私は本当に生かされています。その中で愛されて、生かされていることを知りました。

肉のない状態、全く意識だけの状態になつたとき、私の肉で覆われていた部分が私にストレートに響いてきますが、しかし、それも私は心で受け入れることができると確認しました。

私は私をストレートに受け入れて、いく喜びを感じています。

私は今、その思いを確認し、本当にありがとうございますとうつて、ありがとうございますとうございましたって、心から言えます。

三次元で数え切れない役を演じてきました。

心の底に眠っているエネルギーがその都度、私を揺さぶり、本当の私を揺り起こそうとしてきたけれど、すべてが失敗に終わってきたことにも、今、心からありがとうございます。

揺さぶり、揺り起こし、どれだけ自分に思いを向けてきたことか。今その私の思いを心に感じています。

今世のこの時、私は本当に幸せです。私の望み通りの展開になつています。私は私にあります。
りがとうしかありません。

私は、本当の意味で自己確立、独立独歩の喜びを心に感じています。また、本当にそう
なつてこなければ、眞実の世界は分からないと感じています。自己確立、独立独歩の中にこ
そ、私達は一つという確たる思いが響いてきます。

一一七、「私は温もり。私は田池留吉、アルバートと一つ。」

本当に意識の世界において、その確立ができていなければ、肉を外した途端に、自分の
中のエネルギーに飲み込まれ、押し潰され、大変な状態です。死後の自分の状態を心で感じ
てください。

「私は温もり。私は田池留吉、アルバートと一つ。」

その確信があつてこそ、自分を本当に見つめることができるんです。静かに、自分のエ
ネルギーに飲み込まれることなく、押し潰されることなく、ただ自分を自分の中の温もりで、
一つという喜びで包んでいくことができるんです。

そうでなければ、田池留吉、アルバートなど呼べるはずはありません。

お母さんなんて呼べるはずがないんです。死後の状態、つまり、意識だけになつたとき、そんな余裕はありません。

瞬間的に自分の中は、ブラックのエネルギーで覆い尽くされていきます。

ただただ恐怖なんです。不安ですよ。いいえ、恐怖も不安も感じている暇はないかもしれません。

一瞬のうちに自分の中のエネルギーに飲み込まれ、押し潰され、そんな状態だと思います。

「私は温もり。私は田池留吉、アルバートと一つ。」

これは頭ではないんです。意識の世界、その確信、それを心で確信すること、そうして初めて自分を自分で包んでいけるんです。

私は、自分の死後を思い、瞑想をして自分の状態を感じ、今、私はその中から語っています。

私は、心を田池留吉、アルバートに向けることができます。

肉を外しても、田池留吉、アルバートを呼ぶことができます。意識の私はそうできるんです。だから、私は肉を外した後、自分が死んだんだと感じたその瞬間から、私は私を包んで

いけます。温もりで、喜びで包んでいく、その喜びを心に広げられると私は語っています。

徐々にお母さん、ありがとうございます。私は温もりです。そんな悠長な場合ではありません。肉を外した後、そのエネルギーの勢いは、そんな悠長なものではありません。一瞬のうちに自分をその中に落とし込んでいく。そのエネルギーに飲み込まれていく。その凄まじさを、やはり、今、肉を持って瞑想をする中で、感じていかなければならぬでしよう。私はそう思います。

一一八 肉を離した私を思います。私が語ります。

私は、今、肉を外した状態です。私は私を語ります。語りたい思いが、たくさん出でてきます。私は田池留吉、アルバート、お母さんを呼べる、そう呼べるんです。
私の中には温もりが広がつていきます。

私のエネルギーは大きなエネルギーです。凄まじいエネルギーを感じます。しかし、私は温もり、私は優しさ、私は田池留吉、アルバートと一つ。はい、その思いがそれ以上に、大

きく、大きく私を包んでいきます。

凄まじいエネルギーを包んでいくことを感じます。

私の死後は、はい、言葉で言うならば、これは喜びでしょう。

私は穏やかな中に私を包んでいける。はい、とても大きなエネルギーを包んでいける。それ以上に大きなエネルギーを感じるからです。その大きなエネルギーは優しいんです。温もりなんです。心の広がりを感じます。

私の中にはその思いが広がっていきます。

そして、私の心の中に伝わってくる宇宙達の思いを感じるんです。

とても苦しい暗黒の世界を持つた宇宙達を感じます。

私は今、現実にその宇宙達を感じています。しかし、心の底にあるものは温もりですよ、あなたは温もりですよ、私はただただそのように伝えています。なぜならば、私自身が温もりだと心で知っているからです。

田池留吉、アルバートの思いが伝わってくるんです。

あなたは温もり、あなたは優しさ、心の広がりを感じていってください。そのようなメッセージとともに、私はこのように存在しています。

私は今、肉を外しています。田池留吉の世界を感じています。私の中には、安らぎが広がっていきます。温もりが広がっていきます。お母さんの思いが広がっていきます。

肉を離した私を感じていけば、私はやはり嬉しさが込み上げてきます。私が私に語る思いは優しいです。自分を自分で包んでいく、自分に伝えることができる嬉しさ、喜びは何とも言えないです。その嬉しい思いが伝わってきます。私の現実を感じる、ただ嬉しいです。

一九、私は私を思うとき、すべてが嬉しいんです。目を閉じて異語で自分と語るとき、私の心の中には喜びが湧いて出てきます。

私に向けて異語を発する、私の意識の世界はそれに反応します。
私は私の中の喜びと語り合っています。すべてが喜びです。

今、こうして肉を持つて、形の世界を見て聞いていますが、私はそれが揺らがない現実なんて少しも思つていません。いずれ形の世界は崩れ去り消え去つていくものと心得ています。そういう心境にならせていただいたことに、深く感謝です。躍起になつて影を追わない、

自分を全部そこへ投入しない、何かとでも楽です。もちろん物欲はあります。欲のない人間なんて存在しません。しかし、私にはそれが苦しみではあります。ただ戯れているだけです。私は私の世界が厳然とある喜びを知っています。思えば喜びが返ってきます。その世界を私自身はどんどん歩んでいけばいいんだということを、今世の肉を通して確認できています。

私は、だからこそ、今、肉を持つて、ここにこうしてあることがたまらなく嬉しいです。愚かな肉も、肉の心の狭さも私自身充分感じながら、それでも、私は私を思うとき、肉よ、ありがとうございますと伝えていきます。

途切れることのない中に私というものがあつた、そしてその私は、もともと喜びだつた、限りない優しさと温もりの中にあつた、そう私の世界は伝えてきます。

私はその世界が、田池留吉、アルバートの波動の世界であることを、心で確信しています。だから、瞑想は喜びです。ふうつと思うだけでいい、厳然とある決して揺らがない私がそこにいます。

私は、田池留吉、アルバートです。はい、その通りです。

一二〇、私は自分を思い瞑想できるなんて、本当に幸せです。自分に思いを向ければ、こんこん滾々と温もりが湧き上がります。

死後の世界から私が語ります。

私はとても大きな中に存在していることを感じます。私は大きな中にあるんです。広い中にあります。私は狭くはありません。窮屈なことはありません。ただ広がっているんです。その中で私を思うとき、ただただ嬉しい思い、安らぎが上がります。

静かな広がりの中で、私の心には穏やかな思いが上がります。

懐かしい思い、嬉しい思い、優しい思い、私の中が広がっていくのを感じます。

私は何もありません。何もないけれどあるんです。私があるんです。私はこの中にあります。確かに私はこの中にあります。私の中が広がっていくのが分かります。穏やかに優しく、優しく広がっていく私。私はそのようにして存在していることを感じています。

お母さんの思いが伝わってきます。温もりです。優しさです。

田池留吉、アルバートの思いです。私です。優しいお母さんの思いが広がっていきます。何もない。しかし、私は何もないけれど私はあるんです。この広がり、優しさ、温もりとともにありますことを今感じています。

温もりが広がっていく。優しさが広がっていく。どこまでも広がっていく。穏やかな中に私は存在しています。

お母さん、私はこの心を持つてこれからもずっと存在していきます。お母さん、ありがとうございます。お母さん、ありがとうございます。私の中に喜びが広がっていきます。死後の私が今語っています。お母さん、ありがとうございます。心からありがとうございます。ありがとうございます。私はそのように語っています。

私の中の大きな、大きな喜び、温かい温もり。すべてが私の中にありました。ああ、お母さん。私はこうしてお母さんを思つていればいいんです。優しい温かい思いを思つていればいい。

意識だけの私になつたとき、どんどん優しさが伝わってきます。優しい、優しい私が伝

わってきます。ああ、私は優しい。意識の私は優しいです。お母さんの思いが響いてきます。温もりが響いてきます。

二二一、私はなぜここに肉を持つているのか、私の中では明白です。

私の思いが、本当の私自身が響いてくるからです。今世より以前の肉を持ってきた思いとは全く違います。百八十度違います。

来世の肉は、今世以上に本当の私自身の思いを前面に出していきます。

私は、自分で明らかになつてきたように、自分の死後、つまり、今の肉を置いて、二五〇年後の最終の肉を持つまでの間、ひたすらに勉強を続けます。

自分の中にどんどん進んでいき、私は、ひたすら、三〇〇年後の次元移行へ向けて学び続けます。そして、最終の肉を持ち、私の中からのメッセージを、肉を通して伝えていく計画です。

人としての生き死に、肉の人生を軽んじることではありませんが、私の中ではすでに、もう人間は意識、意識の世界が私、そういう方向に私自身がどんどん進化していっているのだ

と感じます。

もちろん、一人の人間としての喜びとか幸せは、今世の肉を通して、そして、一二五〇年後の肉を通して、私は堪能します。

しかし、それは私の世界からすれば、ほんの微々たるものでしかありません。意識の世界の私の喜びを私は感じ始めています。それが、今世という時間と空間の中での田池留吉、アルバートの真実の波動の世界との出会いでした。

厳然と流れる真実の波動の世界。出会いから目覚め、進化へ自分をいざなつていく喜びを、私の心はひしひしと感じています。

二二二、死後の私より。

まさにアルバートとともに、肉も意識も一つ。その中で私はともに歩んでいる姿がくつきりと、心に浮かびます。

ああ、私の来世の肉、その意識の世界、心の中にくつきりと浮かんできます。

今、私はその思いを感じています。私の中の喜びを感じています。
アルバートとともに歩いていく、まさにその通りです。

アルバート、私はあなたとともに、ともに歩いていく幸せを感じています。

「はい、私達はこの波動と出会うために、今、肉を持つているんですよ。どうぞ、心を広げてこの波動の世界を感じていってください。」

私はそのように伝えています。

はい、二五〇年後の肉の私は、そのように伝えているんですよ。肉を持ち、私は喜びを伝え続けます。

「真実の世界はこうですよ。私達はこれから、この次元を超えていくんですよ。もつと、もつと真実を知つていきましょう。」

私はその呼びかけをどんどんしています。

心から溢れるばかりの喜びの思い。嬉しさ、喜びは尽きることなく、私のこの身体全体から流れています。

私は喜びのエネルギーそのもの。私は喜びを伝えていけることを感じます。

肉を持たない今、私は二五〇年後の肉を思い浮かべています。

肉を持たない私が二五〇年後の肉を心に描きながら、ああ、私はこのようにして、その時間、肉の時間を過ごしていくんだと。

常に、常にアルバートとともににあることを喜びとしている私があります。肉を外して、私は自分の中をどんどん見つめていきます。二五〇年、三〇〇年の時に備えて、私は私の中をどんどん進化してまいります。

二二三、心から湧き起る喜び、温もりとともに私は自分の道を歩いている、そのことを喜んでいます。私は淡々と自分の道を歩いています。

田池留吉、アルバートを思い瞑想をする毎日です。

私は、自分の生活のリズムの中で、自分を見つめ、自分の喜びを感じ、自分の温もりを感じ、私の世界を広げています。

田池留吉、アルバートとの出会いを私は、本当に大切にしました。

今世の私は、この肉を持つて、本当に喜びの時間を過ごさせていただいています。私は、学びに忠実に、ずっと、ずっと忠実にきました。自分の心からの思いとともに忠実にやつてきました。怠慢などという思いは私の中にはありません。自分に対してもういう言葉は全く出てきません。

私は、この学びに出会うというか、田池留吉、アルバートの波動と出会うために、今世肉を持つてきたことを初めから感じていました。

ただ、この学びに集うまでは、過去の私が前面に出てきて、肉を本物として苦しみ喘ぎ続けてきました。しかし、苦しみ喘ぎ続けてきた中でも、私はなぜ、自分の心がこんなに苦しいのだろうかと、絶えず自分に問いかけてきました。それが学びに集う前の私でした。私の心でした。

そして、その心とともに、私は、段々に学びを進めていくうちに、意識の世界を感じ始めるうちに、心というものを探し、一步、一步前に進めてきました。

これからも、そして、永遠に続いていく私の時間の中で、私の中は進化していきます。そのことを、今世を境にして感じ始めたということは、私の中の大きな歴史の一点です。ただ、私はそれを喜んで、喜んでいるだけです。

田池留吉、アルバートに心を向けたとき、本当に喜びの私を感じます。死後の世界は特別な世界ではなかつたことを、私は私に伝えてきます。

死後の世界は喜びです。温もりの私が私を包んでいく、それが死後の世界、肉を外した時間。そして、私はその時間を自分の中で堪能していきます。

私は喜びです。私は温もりです。心の中からそのように上がつてきます。

決して消え去ることのない私というものを心で感じる喜び、幸せは言葉では言い表すことはできません。

これから私の自身を感じるとき、からの私の自身に思いを馳せるとき、ただただ喜びが湧き上がつてきます。

本当に幸せだなあと思います。

幸せを感じるのに、喜びを感じるのに、温もりを感じるのに、何も要らなかつた。私はみんな、みんな持つっていました。それが私自身でした。

だから、私は、ただただ瞑想をして、幸せな時間をいただいていきます。

私を信じることが喜びでした。自分を信じることが喜びでした。

田池留吉、ありがとう。田池留吉、ありがとう。

私は田池留吉、アルバートの波動を心に感じ、一つだと感じることに、ただただ、ありがとうの思いが上がります。

一一四、田池留吉に尋ねます。あなたは今、肉を持つています。しかし、あなたの肉を外して意識だけになつたとき、あなたはどのくらいの時間で、自分の死を感じるのでしょうか。そのことを知るのでしょうか。

私は田池留吉です。はい、私のこの肉を外した後、そうですね、私は死を迎えたとき、つまり、私の心臓が止まつたとき、その瞬間から、私はすでにこの肉を離れています。私はすぐさまこの肉を離れていきます。今も私はもうこの肉を離れているのとほぼ近い状態なんです。だから私に心を向けるということはすごいことなんです。それを皆さんに、私のこの肉がある間に、それぞれの心で少しでも知つていただきたいと思つています。

私は肉の機能が停止した時点で、すぐにこの肉を離れていきます。

肉は私にはもう必要がありませんから。しかし、私は今と変わらず、思いを伝えます。

私に心を向けて、私の思いを感じていけば、私は応えます。

私は田池留吉の意識。心中より語る田池留吉の思いを信じていくことがすべてです。

私はいつも、あなたに伝えている通りです。

私は自分の死を知った瞬間、その時からもうこのようにメッセージを送り続けます。

田池留吉、私はあなたの死を心で知ることができますか。

はい、あなたはいつも私に心を向けています。私はあなたに伝えます。私は今、肉を離しました。そのようにあなたにメッセージを送るでしょう。はい、しっかりと私のほうに心を向けなさい。そのようにあなたにメッセージを送るでしょう。今も、もちろん、そのメッセージを送っています。私と心を一つにして、私に心の針をしっかりと合わせる、それだけをあなたに伝えています。

私はあなたのなかから語ります。私は今、肉を離しました。そのようにあなたにメッセージ

ジが届くでしょう。

そして、あなたはそれを淡々と受けていくでしょう。なぜならば、今肉を持っている田池留吉、肉を離したあの田池留吉、あなたの心では何も変わることはないからです。全く変わりはありません。

私は肉を持つていても、持つていなくても、淡々とあなたにいつもメッセージを送っています。

はい、分かりました。私はあなたの死を感じた瞬間から、今よりもさらに心を向けていくことを感じます。はい、私はその瞬間から、私の学びがさらに深くなっていくことを感じます。ピタリと心を合わす喜びを味わいながら、肉の時間を経ていきます。

はい、安心でしょう。私はあなたに応えていきます。あなたが思いを向ければ、あなたに応えていきます。だから、いつも私に心を向けること、それさえしていればいいんです。いずれ、あなたもその肉も離すときがやってきます。あなたは肉を持つていても、持つていなっても、ただただ心の針を田池留吉、アルバートに向けていればいい。それだけです。

そうすれば、あなたも自分の肉を離した瞬間から、ああ、自分は肉を離したんだ、そのように感じていくでしょう。その瞬間からあなたはまたあなたの歩みを進めていきます。肉を持つているときは、また少し違いますが、あなたはあなたの歩みを進めていきます。

その時は、いつも私とともに歩んでいることを、今よりももっと感じていくでしょう。私達はともに歩んでいきます。ともに存在していることを、あなたの心は感じていきます。

私は田池留吉、アルバート。あなたとともに歩いていきます。私達は一つの世界を学んでまいります。

肉を持っているときも、持っていないときも、ともに歩んでいきます。

そして、二五〇年後を迎えるのです。それからの約五十年間はすごいですよ。ともに肉を持ち、ともに生き、ともに真実を伝えていく、私はその喜び、意識の流れを確信しています。

一二五、私は、死ぬのがずっと恐怖でした。死を思いたくはありませんでした。

死を、自分の死を考えたくもなかつた。そんな私でした。

だから、私はこの学びに集うきっかけとなつた夫の病気という現象の中で、数ヶ月の命

だと医師から宣告された時の私の衝撃は領けます。当の本人よりも私が死を恐怖していました。最後まで夫にはガンという二文字が口にできませんでした。

それが学びに集う前の私でした。そんな私が、その現象をきっかけに学びに集い、今に至っています。

今、私は死を思うとき、自分の死後を思うとき、私の中には、恐怖はありません。なぜならば、私はもうあの底なし沼の地獄の奥底に自分を沈めるということがなくなつた、それを心で確信しているからです。

私はこの肉を離したあと、心の中に田池留吉、アルバートを呼べること、本当の私、温もりの私、喜びの私、優しい私とともにすることを心に感じています。田池留吉、アルバート、お母さんと呼べる私を心に確認しています。だから私は自分の死に恐怖も何も感じなくなりました。

それどころか、肉を外したあとが非常に大切なんだ、いいえ、大切というよりも、田池留吉、アルバートとともに学んでいける喜びが伝わってくるのです。

だから、肉を置くまでの間、この肉を持つて存在する自分自身をしつかりと見つめていこうという思いが、さらに強くなりました。

いわゆる生き方ですね。肉の生き方、肉の存在の仕方、そのことに私は以前よりも真摯な思いで向かい合えるようになりました。

自分の死後の状態を心で感じ、ああ、私は田池留吉、アルバートとともににあるんだと感じ、その温もりとともににある喜び、安心感から死を恐れなくなりました。

あの底なし沼の地獄、その恐怖から自分を解放したということです。

私は自分の死後を淡々と語っています。自分と本当に一つになつて、自分を包んでいただける喜びが心に湧いてきます。

田池留吉、アルバートと心からそう呼び、心を向けることが私の中で、肉を外した後もしつかりとできること、私の何よりの幸せです。

二二六、平凡な肉の人生ながら、今世のこれまでを振り返れば、まさに私は、この学びだけを一点にとらえてきたと感じられます。

その時々の現象が、自分の学びを遂行していくにあたつて、カチッときがするような、あるいはピシッとはまり込んでいくような感覚です。

学びに集う現象は夫の死。衝撃の死の宣告からきつちり三ヶ月で、学びに全力を傾ける態勢が整い、わき目も振らずにセミナー参加。

そして、次のステージは父の病気と死。この現象で私は学びの方向性をきつちり定めました。現象をそのように活用させていただきました。そう自分に言える喜びがあります。

当時を振り返れば、カチッ、ピシッ、心地良い音が私の中で響いています。それは、まさに学ぶために生まれてきたことが、現象を通して成就していく喜びの音に聞こえます。現象がすっとそこへ収まつていくような感覚です。

私は、今現在気分良く、さらに、次のステージを目指して自分の学びを続けています。日々、真面目に、そして楽しく、しかしながらしつかりとした足取りで歩んでいます。喜びの道が見える、展望が広がっていく、そして喜びの道を歩いている、ともに歩いている、きっと次のステージも私を成長させてくれるでしょう。

そのステージに立ちながら、また自分をじつと見つめていく喜び。

果てしなく続く私の道を思いながら、私は今自分ができることを精一杯しています。

一二七、思えば思うほど幸せ。温もりがどんどん心に響いてきます。

私は私と語る。私は私を思っている。その世界に生きています。

田池留吉、アルバート。肉を外した私を呼んでみます。肉を外した私が今、何を語るか、心に聞いてみます。

意識の私より

私は今、肉を持つていません。肉を持たずに語っています。私の意識の世界を語っています。その意識の世界はとても大きなものです。広い、広い、広い、大きな、大きな温もりとともににあることを感じています。心の中に、田池留吉、アルバートをしつかりと呼べる私があります。お母さんを思っている私があります。心の中に響いてくる優しさ、温もりは言葉に表すことはできません。私はその喜びを今、肉に伝えています。この波動の世界を伝えています。

肉に響くこの世界、それが私です。私はここに存在しています。

肉を持っていても、持っていないくとも私は確かにここに存在しています。私の中に広が

るのは、温もりと優しさです。喜びです。私が私を語る喜びです。

私の中には、たくさんの宇宙達が存在します。

たくさんの宇宙達が私の心にアクセスしてきます。

それは、私が肉を外したあと、本当にその凄まじさを感じます。しかし、私はその宇宙達に応えていけます。その大きな喜びを心に感じています。今も、私は肉を持ちながら、その喜びを伝えています。

ただただ私が伝えるのは次元移行。ともに次元を超えていこうというメッセージです。

私は私に異語を発するとき、心中に喜びが広がります。

私は私の思いを伝えています。

田池留吉、アルバートとともににある意識。喜びが広がつていきます。

意識の私より

田池留吉、私はあなたと心と心を通り合わせる今を感じています。

肉を離したあと、私は、田池留吉、アルバートを心に呼びます。心中に応えてくれます。

「心を見つめていきましょう。凄まじいエネルギーはすべて喜びに帰る意識達です。宇宙に点在する意識達に喜びを向けてまいりましょう。心に通信してくる宇宙達にこの喜びを伝えていきましょう。」

私はそのメッセージを受けながら、ともに帰れる道を伝えます。

「田池留吉、アルバートに心を向けることがすべてです。温もりの中に帰りましょう。そのように伝える私があります。

私の意識の世界は、肉を離したあとも、このように語れることが喜びです。私は今も生きています。過去からの私をすべて携えてここにいます。今一つの肉を持ちながら、私自身を語れることができです。

ありがとうございます。心中よりありがとうございました。

過去からの私はすべて闇に沈んでおりました。しかし、このように私は私を語らせていただいています。すべて喜び、温もりに帰る私の道を、私は今世の肉を通して知り得ることとなりました。

田池留吉、アルバートに喜びの波動を伝えていただきました。

「これがあなたの世界です。本来のあなたの世界ですよ」と私は伝えていただきました。

私は喜びです。温もりです。お母さんの懷の中にあつた私を思い出していきました。とても嬉しかつたです。

私は今、このように語っています。嬉しいです。地獄の奥底を這いぢり回りながらも、この喜びを広げていける私が存在していました。私の肉があろうとなからうと、私はこの私を語れることができます。

ありがとうございます。ありがとうございます。肉を持っている今、ただただありがとうございます。肉を広げてまいります。

私の行く先は一つ。田池留吉、アルバート、母なる宇宙。あの喜びの世界を心にどんどん広げていくこと。私は今、自分を語ります。

一二八、自分に思いを向けることが嬉しい。思いを向ければ喜びが返ってきます。私の中に、もともとあつた私自身が響いてきます。

肉は今ここにあります。しかし、それは私の現実ではありません。

私は瞑想をすれば、こうして語っている私を感じ、それが私だとする確かな現実を感じ

ます。

肉を離した私を感じていくこと、つまり、意識の私を感じいくことが喜びです。だから瞑想は喜びです。本当の私、優しい私、温もりの私と出会うからです。

そうした状態で、逆に肉の私を思うとき、肉の思いの愚かさの中にも、もちろん、肉としての優しさ、温かさがあります。しかし、その優しさ、温かさと意識の私の優しさ、温もり、喜びとはスケールが違うことを感じます。肉の心の狭さを感じます。どんなに肉で優しくて温かくても、意識の世界のそれとは雲泥の差なんですね。いいえ、比べること自体が違っているんですね。

肉を基盤として発する思い、意識を基盤として発する思い、今、肉を持つてゐるからこそ、自分でそのどちらも体験できることがあります。

私は、自分の現実を知るために、学びをするために生まれてきました。私の肉の人生は学びをするためになりました。私の思い通りの肉の人生を描いていることが嬉しいです。

そして、私は私の意識の世界の現実は喜びであることを知りました。

私は喜び、私は温もり、確固たる思いの中で瞑想を続けています。

一三九、死後の世界より

お母さん、お母さん、お母さん。

はい、私は田池留吉です。はい、田池留吉の意識が語ります。母なる宇宙を思い出していくことが喜びです。

母なる宇宙へ帰つていくことが喜びです。宇宙は喜びです。天変地異は喜びです。私は、田池留吉の肉が無くなれば、この日本の国から喜びのエネルギーが本当に形となつてあなたの方の目の前に現れてくるでしよう。

天変地異が日本の国土の中で喜びのエネルギーを流してまいります。

私は、田池留吉に心を向ける瞬間、そのエネルギーを感じるでしよう。

田池留吉、アルバートの波動は優しく、優しく包んでいくことを感じていくでしよう。

私は生きて死んでも、あなたの心の中より語ります。喜びのエネルギーを語ります。

私は田池留吉、アルバートを語ります。田池留吉、アルバートの波動が流れていることを心より語ります。

田池留吉、アルバートは、私と一つ。一つになつて心からこの喜びを流してまいります。地球全体にこの喜びが広がっていくとき、私達は次元移行へ向けて一直線に進んでいくときです。

この喜びを、遙か、遙か彼方の宇宙へ繋いでいくことを私の中に語つてきました。私は次元を超えて、この宇宙を喜びで包んでいくことを語ります。

嬉しいです。田池留吉、アルバート。

次元を超えていく。一つ越え、二つ越え、私達はともに歩いてまいります。田池留吉、アーバート、心の中より語る私を信じなさいと、いつも、いつも伝えていただいています。喜びです。ありがとうございます。私の中に溢れる喜びが伝わってきます。ただただありがとうございます。

一二〇、あるのは喜びだけ、温もりだけ。その世界だけです。

肉を持っている私が肉のない私を呼びます。肉のない私が答えます。

今、私は田池留吉、アルバートに心を向けています。肉は色々なを感じます。しかし、私はそれを喜びとして受け入れています。田池留吉、アルバートは私と一つの世界です。喜びが、温もりが心に広がっていきます。肉を通して色々なものを感じ、私はその感じたものを喜びとして受け入れています。

肉のある私は私ではありません。私は今、私を語っています。

あるのは喜びだけ、あるのは温もりだけ。私は喜び、私は温もり。肉を通して色々な波動を感じます。私はそれを心で受け入れています。

そして、肉に伝えます。私は確かにここに存在しています。

肉を離したあとの私の状態を心に感じてください。私はそのことを肉に伝えます。語っているのは私です。肉のない私が語っています。

私は自分が肉だとは思っていません。意識が自分だとする思いです。この今語っている私は肉がありません。

どうぞ、私の思いをストレートに受けていてください。

肉を通して、肉の目や耳、皮膚などを通して色々なものを感じます。

はい、色々な情報が私の中に入ります。しかし、私の中はただただそれを喜びで受け入れているだけ。そして、喜びと温もりをこの肉に伝えているだけです。

田池留吉の肉を通して、田池留吉の意識が伝えてているように、私も私の意識が私の肉を通して伝えてています。

田池留吉の肉を通して伝えてくる田池留吉の意識、アルバートの意識、私はストレートに受けています。

喜びです、ありがとうございます、幸せです、その波動をストレートに受けています。

私は喜びです、温もりです、幸せです。ああ、嬉しい。

いつも、いつも、田池留吉、アルバート、お母さんを呼べる私の喜びを、今伝えています。ああ、肉は色々な情報を受けるものでしかありません。私ははつきりとそのように伝えています。

肉よ、分りますか。私は、今、肉を通して様々な情報を受けています。

そして、その情報を私の中でしっかりと受け入れていく作業を進めるとともに、私は、今、肉を通して自分の中の思い、喜び、力強いメッセージを宇宙に発信しています。

肉を外した後は、これが私の主とする仕事となってきます。

肉を通して入ってくる情報がないけれども、私の中はさらに喜び、優しさのエネルギーを発信してまいります。この宇宙、意識の世界に波動を流してまいります。

私は私の心に通信してくる意識達とともに、ずっと存在していることを感じます。

思いをストレートに発信していける喜びを感じます。

私の世界は広いです。大きな中があります。受け入れていける喜びを感じます。田池留吉、アルバートに心を向けながら私は私を受け入れていきます。

一三一、待つている宇宙達がいる。肉を離せばその宇宙達とともに私は存在しています。私の中からどんどん優しさが伝わっていきます。温もりが伝わっていきます。

その喜びの中で、喜びを伝え合っていける喜び、たくさん数限りない宇宙達とともに

存在していける喜びを感じます。

それが私の現実です。肉がない私にとつて、二五〇年という地球時間などあつという間の出来事です。

嬉しいなあ、ありがとう、ありがとう、ありがとう、そうやつてともに喜び合っているうちに、私は肉を持ちます。

思うことが喜びで、思えることが喜びで、ともにあることが喜びで、私はこの喜びの中に、温もりの中に生きています。そしてそれが私自身だと、そうはつきりと伝わってきます。

今、肉を持つて、意識の私を感じていける喜びを伝えていただきました。意識の私の温もりと優しさ、喜びを肉に伝えていける時間をいただいています。

肉はたくさんのこと学んでいます。肉といふものの愚かさ、肉を基盤とする思いの苦しさ、重さをしつかりと学び、そして、瞑想を通して本来の私自身の温もり、優しさ、喜びを伝えていける幸せな時間をいただいています。

肉は幸せです。意識の私を充分に心に感じられる今の肉は幸せです。私の意識の世界から、

肉の喜びと幸せは、意識の自分を感じることにあるんだよ、いつもそのように伝えていただいています。

—— はい、私は宇宙へ呼びかけています。心の中に、田池留吉、アルバートを呼んでいきましょうと、私はそのようにメッセージを送っています。私に応えてくれる宇宙達がたくさんいます。

はい、暗黒の宇宙達がたくさんいます。自分を忘れ、温もりを忘れ、喜びを忘れ、暗黒の底に沈み込んできた宇宙達が私の心にアクセスしてきます。

ああしかし、私の心の中には、恐怖も何もありません。何もありません。ただ私はこの思いをしつかりと伝えていくだけです。

ともに次元を超えていきましょう。私はそのように伝えていきます。

温もりがあなたですよ。喜びを思い出していきましょう。暗黒の世界ではありません。あなた達が作ってきた暗黒の世界は偽物です。偽物の世界を本物だと握り締めてきたあなた達の心を見つめてください。私はそのようにいつも、いつも伝えています。

私は優しさ。私は温もり。この思いを、私の中の宇宙達に届けています。私達はお母さんのある温かい中から生まれてきました。母なる宇宙から生まれてきました、母なる宇宙へ帰つていこうというメッセージを私は、私の中の宇宙達に、いつも、いつも送っています。それが私には喜びです。

私は肉を外したあと、この喜びをずっと、ずっと広げていきます。

私は今、肉を持っています。肉を持つていますけれども、私はこの喜びを発しています。肉を外してもこの喜びを発していきます。それが私の心にはつきりと伝わってくるから、私は喜びなんです。

田池留吉、アルバート、肉を持つていても私は喜びということは、そうなんです。私の状態は変わらず、このメッセージを送つていける。次元移行を伝えていける。私の喜びを伝えていける。田池留吉、アルバートと一つになつて、心を一つにして、私の中を伝えていける、私の中から伝わってくる喜びが、私の中へまたさらなる喜びとして大きくなつていきます。しっかりと、このメッセージを伝えていくことを私は確認しています。

私は喜びです。私は私を信じています。私の喜び、私の温もり、私の心の広さ、意識の世界の大きさ、田池留吉、アルバートとともに歩いていく意識であることを信じる喜び。た

ただただその喜びが、私をこのように語らせて います。

一三三、心の針を合わせる、田池留吉、アルバートに合わせる。ただそれだけ。合わせられればいい、あとは何も要らない。言葉も何も要らない。そこに広がる世界を感じて いるわけだから、もう分かる、どれだけの喜び、幸せであるか、今、もう学びはすでにそういう状態だと思います。一瞬にして合う、合えばどうなるか、瞑想の中で、私はその体験を重ねています。ただただ嬉しいです。そして楽しいです。

意識の流れをはつきりと感じ、肉の思いなど取るに足らないものだと分かれます。何もない。あるのは温もりと喜びだけです。広がりゆく世界だけです。その広がりをどんどんどんどん体験していくべきなのです。

喜びの中で、瞑想をしていれば一時間などすぐ経つてしまいます。自分の生活の中で、一時間という時間を用意できる時もあるし、できない時もあるけれど、私はとにかく、自分の今を精一杯自分に尽くしていこうとしてきました。これからもその姿勢は変わらないです。少し長く時間を費やして瞑想をしたり、瞬間的に思う瞑想をしたり、私なりに工夫して

います。

もう、こんな考え方を持つている人はいないかも知れないけれど、学びをしているから天変地異に遭遇しないとか、あるいは遭遇しても命は助かるとか、そんなことはありません。学びをしていても、していなくても天変地異に遭遇し、そして、今そこに居合わせた人達と同時に命を落としていくんです。しかし、思うことを知っているか、また瞬間的に思えるかどうかで、いる場が違ってきます。それが意識の世界、波動の世界に生きているという現実です。

肉とともに死んでいくか、肉を瞬間離して死んでいくか、ということでしょう。もつとも、肉を瞬間離して死んでいくことは難しいです。今世、その体験をされる人達もいるでしょうし、これから二五〇年間の転生は、そのことを学んでいくのだと思います。

机上の学びではなくて、実践を通して学んでいく、そして二五〇年後を迎えるというこ
とでしよう。

一三四、心を田池留吉、アルバートに向け、宇宙を呼ぶ。

宇宙達が応えてくる。

思いを語らせてください。思いを向けてくださつてありがとう。思いを語らせてください。私達の思いを語らせてください。心の中に優しさ、温もりが伝わってきます。闇を心にしつかりと抱えたまま、私達はずつとずつと長い間存在してきました。

しかし、あなた方は温もりです。優しさです。母なる宇宙へ帰りましょう。次元移行の流れの中で、喜びのあなた方を感じていくでしよう。もつと、もつと感じていくでしよう。そのように伝わってきます。

私達はそれを信じています。次元移行は現実のものとして私達の心の中に響いてきます。はい、私達はその準備を今整えています。

心を向けてくださつてありがとうございます。私達は返していきます。

この喜びの思いを伝えていきます。はい、苦しい中にあつた私達宇宙。私達は喜びの宇宙へ帰れるんですね。今あなたの思いを心に感じ、私達はとても嬉しいです。

田池留吉、アルバートという眞実の波動の中に、心を全開しなさいと伝わってきます。はい、伝わってきます。はい、嬉しいです。私達は喜び。喜びの思いをここに伝えます。どん

なにどんなに苦しみ喘ぎ続けても、私達は、本当に帰れるところがあると知りました。

母なる宇宙へ帰つてきなさい。その呼びかけと出会いました。両手を広げて待つてくれている優しさと出会いました。広い、広い世界があなたの方の世界ですよ。そのように伝えていただいたことを喜んでいます。

もっと、もっと心を向けてまいります。

田池留吉、アルバートのほうに心を向けてまいります。心を語らせていただき、ありがとうございます。はい、しっかりと心を見つめてまいります。

私は、肉を持っている今はもちろん、そうでないときも、このように宇宙達と交信します。それが私の喜び、宇宙達とともに歩いていける喜び、次元を超えて存在していける喜びを、瞑想の中で感じます。瞑想は喜びです。

一三五、私は田池留吉の意識です。しっかりと私のほうに心を向け、あなたの心と私の心を合わせていける喜びを感じていってください。心の中に呼べば通じる世界を感じていける喜び、

その喜びを広げていくのです。

私の世界は無限大です。あなたが心を向ければ向けるほど、私の世界を感じていくでしょう。あなたの世界は広がってまいります。

田池留吉の世界へ、さらに半歩、一步近づいていけばいくほど、あなたの心の世界は広がっていきます。

あなたの心の中で証明する時期がやつてきます。

私はそのことをあなたに伝えました。心の中で証明するんです。あなたの心がどんどん広がっていくことを私は待ち望んでいます。

今よりも、遙か、遙か広い世界を心で感じる人だと思います。

私、田池留吉の世界を存分に感じていってください。肉を持つている今、肉を離したあと、私達の世界を心で感じる喜びだけがあなたを待っています。

私達は一つ。一つの世界にあることを心は知つていくでしよう。さらに知つていくでしょう。瞑想だけがあなたのする仕事です。肉を持つていても持つていなくとも思うこと、すなわち瞑想です。心を向け、心の針を合わせていける喜びは大きな喜びです。

あなたの心の中にその喜びを伝えます。何も要らないとあなたは語りました。そうです。

この波動の世界だけがあなたの中の真実です。

私達は意識、永遠に存在するエネルギーなんです。私はそのことをいつも、いつもあなたに伝えてきました。

これからもその喜びの道を一步、一步突き進んでいけることだけを思つてください。確実に広がっていくあなたの世界の中で、喜びを味わっていきましょう。喜びだけがある世界です。温もりだけがある世界です。

広い、広い、広い、どこまでも広がっていく世界の中にあることを感じていけるこれからなんです。あなたの中より語る田池留吉、アルバートの波動の世界を心に受けてくださつてありがとう。

喜びです。私達は喜び、温もりとともに存在しているこの意識の世界を心でどんどん感じていってください。お伝えすることはそれだけです。

すべてはあなたの心の中の出来事です。私達の思いは一つです。あなたの心と私の心の中に広がる優しさ、温もり、アルバートの世界をこれからもどんどん感じていってください。あなたの幸せは私の幸せ。あなたの喜びは私の喜び。すべてが一つの世界です。この世には何もありません。喜びしかない、温もりしかない。このように私はいつも伝えています。

一三六、心を向けて、田池留吉、アルバートと心を一つにしていけばいくほど愛は流れていきます。

優しさと温もりが仕事をします。喜びのエネルギーが仕事をします。

すべてをご破算にして、田池留吉、アルバートなんです。すべてをご破算です。すべてをご破算にして、田池留吉、アルバートを思う。

喜びの世界を基本にして培つてきたエネルギーを感じていくことです。もはや培つてきたエネルギーは苦しみでもブラックでも何でもありません。ただ間違つてきた大きなエネルギーが喜びへ帰る喜びを伝えてくれます。すべてをご破算にして、田池留吉、アルバートを思える喜びと幸せを今世の肉を通して、私は心に感じています。

中から湧いてくる思いは、「ありがとうございました。ただただ嬉しいです。ありがとうございました。私は喜びでした。私は温もりでした。今こうして存在していることが喜びです。ありがとうございます」という思いだけです。

そして、田池留吉、アルバートを思い瞑想をします。

ああ、ただただありがとうございます、ありがとうございます、ありがとうございます、そう伝えてくれる田池留吉、アルバートの世界。

はい、出会いを本当に喜んでくれています。

「よく出会つてくれました。ありがとうございます。

この道をひたすら真っ直ぐに歩いていきましょう。

どこまでもただひたすら、ともに歩いてまいりましょう。」

言葉にならない喜びが伝わってきます。

思うだけでいいんですよ。思うだけ。思えば愛が流れていきます。心より愛が流れていきます。

波動の世界はそのような世界です。伝えるものは波動。伝えるのはあなたの愛の世界。田池留吉、アルバートを呼ぶ素直なあなたの心。それが仕事をしていくのです。

一三七、パワーを求める心。宇宙にパワーを求める心、求めてきた心、そのほうに心を向けて
みます。

どれだけ、どれだけこの時を待っていたことか。宇宙にパワーを求めてきた心のままで、
この地球上に転生してきたたくさんの過去世を抱え、私は、今ここに存在しています。

どれだけ、この今世という時を待ち続けてきたことか。

田池留吉、アルバートの意識の世界と出会わせていただき、真実の波動の世界を心で感
じさせていただき、私の中は本当に喜びです。

宇宙にパワーを求めてきた私の過去の数々、すべてが喜びへ帰るこのチャンスを、私は
フルに活かしています。

これからの一五〇年、三〇〇年の間、私は私の中でこの喜びを伝えてまいります。

地球上に天変地異を起こしていくエネルギーは、すべてこの喜びが源です。天変地異と
ともに私達は次元移行をしていくと、私は伝えました。

次元移行とは喜びのエネルギーです。田池留吉、アルバートが伝えてくれた喜びのエネ
ルギーは真なるパワーです。

私はその真なるパワーを心に広げていく喜びを、今、心に感じています。どんなにどんなにこの時を待ち続けてきたか。

宇宙へパワーを求めてきた心のまま転生を繰り返してきた、その転生の数々。すべてが地獄に落ち、沈み込んでいた。苦しみの中に喘ぎ、そして、母を求めてきた私の中。

今、私は、母なる宇宙へ確かなる歩みを進めています。

私達の思いを聞いてくださいと宇宙は語ってきます。

私はその宇宙達とともに、ともにともに歩いていこう、力強いメッセージを送っています。

私達は喜び、温もりだと伝えています。どんなにどんなにこの時を待ち続けてきたことか。

私達は変わると伝えました。喜びの原点は私達の中にありました。湧き出る喜びの思い、温もりの思い、どんどん心から流れていきます。

ただただ私は、田池留吉、アルバートへと心を向けることをやつしていくだけです。そうすれば、私の中から喜びのエネルギー、力強いパワーが流れていきます。これこそ真なるパワーでした。このパワーこそ、宇宙の源に発するパワーでした。

パワーを取り違えてきたこの心です。申し訳ございません。田池留吉、アルバート、眞実の私は今世の肉を通して懺悔をしてまいりました。

私のエネルギーの大きさを、これからどんどん感じてまいります。

天変地異を起こしていくエネルギーは喜びです。喜びのエネルギーが喜びへとさらに目覚めていく。ますます喜びのエネルギーが大きくなっています。

私はそのことをこれから、二五〇年、三〇〇年かけて伝え続けていきます。
田池留吉、アルバート、ありがとうございます。ともに歩いていく意識ですよと伝えて
いただきました。

私は私をさらに知つていきます。これから時間、はい、この中から私は私を語つてしま
ります。エネルギーです。闇のエネルギーではありませんでした。私は喜び、喜びのエネ
ルギー。ともにともに歩いていくエネルギーでした。

一三八、肉がただ単に決意の表明をして手を挙げても、意識の世界を根本から変えていくこと
は難しいというのが現実です。しかし、それでも肉から始めなればどうにもならないことも
現実です。

私は、理想論は掲げたくはありません。現実は現実としてきちんと受け止め、本当に真

摯な思いで自分と向き合う姿勢が必要だと思います。

今世、学びに集いながらも、学びを放り投げていくのも自分です。自己選択です。

ヨイショ、ヨイショと持ちあげられて進むべき道ではありません。

ともに行きましょう、待っていますという言葉、その波動は厳しいです。

そう、優しいというよりも厳しいでしょう。肉でどちらえれば、優しいなあ、ああ、待つてくれているんだと優しさにほだされてということかもしれません、優しさにほだされてだけでは一直線に進むことは難しいというのが、それぞれに自ら作ってきた他力の壁があるからです。

しかし、それも、ただひたすらに瞑想を重ね、どれだけ難^{かん}難^{なん}辛苦^{しんく}の末の今世であつたかを、それぞれの心で感じ始めてくれば、本当に今という時の大切さ、ありがたさが身にしみてくるはずです。

その段階で、肉が決意の表明をして手を挙げてこそ、ともに学んでいこうとする自分に対する真剣さ、厳しさが、実は自分に対する本当の優しさであり温もりだと分かつてくると、私は解釈しています。

一三九、眞実の世界を言葉で解き明かすことはできません。肉の人間達に眞実を知らせるには、言葉ではできないことなんです。

ただただ心を田池留吉、アルバートに向け、優しさのエネルギー、喜びのエネルギーがどんなものなのか、それぞれの心に本当に伝えていくには、はい、もう、あの手段しかありません。

天変地異こそ、そのエネルギーをしつかりと指し示していく出来事なんです。

人間達は、その肉というものを心に大きく、大きく広げてきました。

愚かな、愚かな意識の世界を、まだまだこれからも大きく大きく広げていくでしょう。しかし、天変地異というエネルギーはしつかりとその意識達に伝えていきます。

間違っている、間違ってきた、どれだけ愚かなことだつたのか、そのエネルギーをそれぞれの心で感じていくこれから的时间でしよう。

私達は眞実の道を、今世この肉を通して伝えていただきました。まず肉から、肉の目と耳を通して、知識を入れました。しかし、その時期はとつ々に過ぎ去りました。言葉で眞実の世界を広げていくことはできないことは、もう、お分かりだと思います。言葉ではない。た

ただただ波動を伝えていくのみです。

田池留吉、アルバートとともに歩いていく意識だと目覚めていく喜びこそが、天変地異を起こしていくんです。

言葉ではありません。私はそのように伝えます。心の針をしっかりと田池留吉、アルバートに向ける、ただそれだけ。それだけですべてが変わつてしまります。

宇宙は変わっていくことをすでに伝えました。心の中のエネルギーをしっかりと発信していくこと、それだけが私の喜びです。

一四〇、私が私に語りに語つてくれました。

今、私には塩川香世^{ヒラカワカエ}という名前があります。塩川香世さん、私の思いを聞いてください。

田池留吉、アルバートへ心を向けることを喜びとする私があります。

私の中をしつかりと見つめていくと、私のエネルギーは応えてくれます。

間違つてきたエネルギーだけれど、大きな、大きな間違いを繰り返してきたエネルギーだけれど、私は今世の肉を境にして、田池留吉、アルバート、本当の自分を素直に、素直に呼べる私に巡り会いました。

すべてはここから出発だと私は知っています。

今世が私の大きな転換期だと心に伝えていきました。そうです、私の転換期。私の中での一点はとても大切な一点です。

今世の私はとても大切な一点です。

それをこれからの一五〇年、三〇〇年かけて、私は私の中をしっかりと見つめていく喜びへ繋いでいく、そういうプロセスになっています。それが私には分るんです。心で感じるんです。

瞑想をするとその喜びが広がっていきます。

田池留吉、アルバートの世界を心に広げていくと、どんどんどんどん私の世界が広がっていくんです。

私は言葉ではなく、この肉でもなく、ただ広がる世界を感じています。

言葉では表せられない世界を感じています。それをどのように言葉に置き換えるかとい

うと、広い、広いとしか言えないんです。温かい温もり、どこまでも広がっていく世界とか言えないんです。

だけど、私の中は確実に広がっていきます。

田池留吉が私の中で応えてくれるんです。

ともに歩いていこうというメッセージだけが私に送られてきます。

ともに歩いていこう。ともに存在していこう。一つの世界を極めていきましょう。

ああ、どれだけの喜びを私の中に伝えてくれているか。田池留吉の存在はすごいです。田池留吉の存在は本当にすごい。

心を向けていけばいくほど、広がっていきます。

どこまでも広がっていく。ああ、それが喜びなんです。

その広がりが喜びなんです。私はこの喜びを感じていく時間と空間を、これからも持ち続けるでしょう。肉はその時間を持ち続けるでしょう。

一四一、お母さん、お母さん、お母さん、生まれてきたことを喜べなかつた心が苦しかつたで

す。生まれてきたことを、自分自身を呪つてきただことが苦しかったです。

苦しみ喘ぎ、間違い続けてきた自分を責め、見下し、嫌い、突き放してきた自分のこの心を、ようやく私は母の温もりに自分を自覚めさせ、この心を包んでいます。それがたまらなく嬉しいです。

私の心は一斉に叫んでいます。私はこの地球上に苦しみのままやつてきました。苦しみから自分を解放するためにやつてきたのに、苦しみを大きく広げ、苦しみの中に自分を落とし込め、どれだけ自分自身を呪い殺してきたことか。そのエネルギーがとても苦しくて、苦しくて。自分をないがしろにしてきた、自分を軽く見てきたこの心が、どれだけ大きな過ちであったのか。

心は叫びました。田池留吉、アルバートとの波動の出会い、その中で私の心が叫びました。

今、私の心中は落ち着いています。安らぎの中になります。広がりの私を感じます。心を田池留吉、アルバート、本当の自分に向けると、どこまでも広がっていく私を感じます。

この世界こそが私の世界でした。私は私を知らずにきたことを、今世の肉を通して、ようやく心に知りました。私が広げてきた世界は偽物の世界でした。真っ直ぐに心を向けていく

とき、真っ直ぐに入ります。喜びが入ります。私の中に喜びが膨れ上がります。湧いて出てくるんです。真っ直ぐに自分を見つめたとき、ただこの喜びが、温かい温もりがどんどん湧いて出てきます。同時に私の心は広がっていきます。

田池留吉の意識が三次元まで降りてきました。

出会いを本当に喜んでいただきました。出会いをありがとうございますと、田池留吉が伝えてくれました。田池留吉が伝えてくれたんです。出会いをありがとうございますと、私と出会ってくれてありがとうございますと、そう伝えてくれたんです。

私はもう嬉しくて、嬉しくて、ああ、この出会いを私もどれだけ待ち続けてきたことか。私の思いは言葉になりません。出会ったが最後、もう私達は決して離れることはなく、ただ一つを追求していくだけなんです。

それをまた、田池留吉が伝えてくれました。

「どれだけの喜びであるか、心で感じていきなさい。心で感じていきましょう、心で感じていけるあなたですよ。肉を持ちながら、そして肉を外しても、喜びを感じていきましょう。なぜならば、それが私達だからです。」

田池留吉の世界から、田池留吉の波動からそのように伝わってきます。

肉は持つていても肉を持つていらない状態の田池留吉の世界を、学ばせていただきます。

そして、私の心で学んだことを、田池留吉が本当に肉を離したあと、私の中でも広げてまいります。

一四二一、瞑想を実践している人はお分かりだと思います。

ゆつたりとした気持ちで、ゆつたりとした時間、静かな時間の中で、ゆつたりと瞑想をできること、自分に用意できること、それがどれだけ贅沢なことなのか、どれだけ素晴らしいことなのか、どれだけすごいことなのか、心で感じられていると思います。

実際に瞑想をすれば分ります。ゆつたりとした時間、静かな時間、心を余すところなく、田池留吉、アルバートに向か、自分と真向かいになり、異語で語るなり、静かな時間をいただくなり、自分の中を見つめることができる時間、そんな時間を自分に用意できる今というとき、本当に幸せだと思います。

私の中から語ってきます。私は、肉を持っていない私に心を向けています。

心の中をしつかりと見つめ、ただただひたすらこの道を真っ直ぐに真っ直ぐに突き進むこと、喜びです、喜びです、喜びです。

はい、私達は喜びですと、その方向に心を向けていくことを私はあなたに伝えてきました。そうです、そうです、その通りです。

心の中を見つめていくことは喜びです。はい、私達は喜びです。このように語れることが喜びです。

肉を持つていなくとも同じ、私は私です。

はい、肉を持つていなくとも同じなんです。私達はこの道をただひたすら真っ直ぐに突き進むだけ。

たくさんの過去世達を心に抱え、この道を真っ直ぐに突き進んでいく。私達は自分の中を見つめています。

次元移行へ突き進んでいく意識であることは、疑う余地もないことです。私は田池留吉、アルバートとともに歩いていく、そのように語り続けてきました。私はこの思いをずっと、ずっと未来永劫自分に伝え続けます。

次元を超えていく、どんどんどんどん超えていく、そして、真なる自分にどんどんどんどん近づいていく、それが私の喜び、私の幸せです。

私は私を知つていくこれから的时间、とてもとても楽しみにしています。

心の中の喜びは大きなものです。

遙かなる宇宙から心を繋いできた私にとって、今世のこの時間を経て、私はさらに自分を知つていくでしよう。

宇宙は待つていることが心に伝わってきます。心から伝わってきます。

宇宙は待つています。母なる宇宙です。

たくさんの宇宙達が私の心を目指して叫んでいます。ともに、ともに帰ろう。ともに、ともに帰りましょう。次元移行は私達の大きな仕事です。

ありがとうございます。ありがとうございます。

心の中から私達は一齊に叫んでいます。

田池留吉、アルバートに心を向けていくこと、それだけが喜びです。

一四三、肉を持たない私が語ってきます。

私達は何度、肉という形を持つてきたことか。その肉を無くし、また肉という形をいただく。何度、何度もそれを繰り返してきたことか。

ああしかし、今、私達は、確かにここに存在しています。私達は語っています。肉を、一つの肉を通して私達は語っています。

私達は確かにここに存在しています。

私達には形がありません。伝えてきました。私達には形がない。その私達の思いが、今、一つの肉を持つていてるだけなんです。

そして私達は、その肉を通して温かい波動を感じています。優しい、優しい温もりを感じています。どこまでも広がっていく私達が本当のあなたですよ、その思いを、いつも、いつも受け取っています。

お母さんの懷に抱かれて私達は存在していることを伝えます。
肉に伝えます。その肉を置いたあとを伝えています。

私達はあなた。あなたは私達。そのようにして肉に伝えていきます。
はい、心の中を見るということは、自分を見つめるということ。自分を知つていくこと、
自分を感じていく喜びを伝えています。

あなたの口を通して私達の思いを、ただ形に表してください。

伝えます。肉という形にしがみついていることがどれだけ愚かなのか、私達は伝えます。
私達は自由です。私達に形はありません。しかし、今、このように語っています。自由に伸び
び伸びと自分を知つていく喜びを感じています。

田池留吉、アルバートと呼べるんです。呼べば通じる世界が私達の世界です。そのことを
肉に伝えています。

私達は幸せです。お母さん、ありがとう。

私は肉のない私を、心に感じています。間違ってきた、申し訳ございません、苦しかった、
申し訳ございませんと語つてくる思いも私でした。そして、今、お母さん、ありがとう、私
達は幸せです。自由に伸び伸びと自分を見つめることができる、田池留吉、アルバート、そ

う呼べると語つてくるのも私です。

私は、こうして語つているのが私なんですね。

その私に心を向けるとき、嬉しいんです。温かい思いが伝わってきます。

私は自分に思いを向けることができます。この私の中に帰れるんです。それが嬉しいです。肉という形を持つていれば、その中である程度の法則に従わなければならぬけれど、私は自分を思い瞑想をするときは、自分の中に限りない優しさと温もりを感じます。その私の中に帰れることが嬉しい、本当に嬉しいです。

一四四、田池留吉、アルバートを心から呼んでごらんなさい。

田池留吉、アルバート。田池留吉、アルバート。田池留吉、アルバート。田池留吉、アルバート。田池留吉、アルバート。

はい、心の中に喜びが湧き起ります。心の中に喜びが湧き起つてくる。苦しい意識

達はもちろんありますが、それでも私の中は喜びです。苦しい意識達に喜びを伝えていける喜びを感じます。

はい、心が広がっていきます。苦しい意識達が心を広げてくれます。苦しかった、苦しかった。だけどこの喜びを感じるために、この苦しみがありましたと、そう伝えてくれます。宇宙へ心を向けることは喜びです。宇宙にさ迷う意識達に呼びかけることは喜びです。

田池留吉、アルバート、私は喜びです。この波動を伝え続けていけるなんて本当に幸せです。私の中は喜んでいます。肉のない私が喜んでいます。肉のない私は喜びだと伝えてきます。肉を持っている私に伝えてきます。

「この喜びを感じていつてください。波動を受けてください。私達は喜んでいます。今、田池留吉、アルバートの波動を感じさせていただいています。肉のあるあなたを通して、私達は喜びを伝えていただいています。

私達はあなたの中にいる意識、宇宙。そう、宇宙です。心の中から語ります。心をともに、ともに向いていきましょう。私達はあなたに伝えます。また、あなたも私達に伝えてくれます。そうです。ともに歩いていきましょう。私達の目指すところはあの世界です。母なる宇

宙へ帰れることを私達は約束してきました。心の中より今、語らせていただいています。田池留吉、アルバートを心から呼んでごらんなさいと言われました。私達は喜びの思いを心に感じ、これからも存在してまいります。次元移行を目指し、私達は存在していくのです。

田池留吉、アルバートとともに存在していける喜びを伝え続けます。
どんどん宇宙に心を向けてください。

宇宙から喜びのエネルギーが流れ出しています。

喜びは喜びを大きくしていくのです。喜びのエネルギーこそ真なるパワー。私達は真なるパワーの持ち主でした。心よりお伝えします。」

一四五、あなたは、本当に自分の中の温もりを信じていますか。温もりの自分を自分だと信じていていますか。

私は信じています。この温もりの世界が私なんです。私は自分の中に帰れるんです。心の中に温もりが広がっていき、私が私を包んでいく喜びの中になります。

私はこの温もりの自分を信じています。だから私は肉を離したあとも、自分を見失わずに、

自分をしつかりと見つめることができます。そこには、たくさんの私とともに存在していく喜びがあるんです。

私は温もりだから、私の中に私を包んでいける。肉を持っていてもそうでなくとも、私の中は変わらない。なぜならば、私はこの一つの肉ではないから。

今、肉を持っている自分をただひとりの自分だとする生き方と、自分の中にたくさんの自分が、たくさんのが生きていて、そのたくさんの私が私だとする生き方とでは、全く生き方が違います。存在の仕方が全く違ってきます。

ああ、そのことを心で感じていけばいくほど、本当に嬉しいです。たくさんの自分を感じることがどれだけの喜びか、今、私は心に広げています。

たくさんの私がいます。今、肉を持っている私に、肉を持っていないたくさんの私が応えてくれます。

手に手を取つて、ともに帰つていこう。私が私に呼びかける優しさと温もり。それは喜びです。

心の中に響いてくるこの安らぎの世界。この温もりと安らぎが私なんだ。この世界を心

で感じていけばいくほど、もう私は死を特別な思いで見ることはなくなりました。

いずれこの肉体は朽ち果てていきます。周りの人達との別れもあるでしょう。

しかし、こうして、目を閉じて心の向け先を一点に定めれば、すべてがここにあるんです。

一つの世界の中で、存在しているのが私達でした。

温もりと優しさと喜びの自分を広げていくこと、それだけが本当の幸せの道でした。

肉がない私は、次のようにして存在しています。

田池留吉、アルバートを呼べば、はい、その世界は波動で応えてくれます。優しい温もりで応えてくれます。

優しいです。そして、私は心を向けます。その優しさと温もりとともに心を向けていけば、私は広がっていきます。

確かに存在する私の中の温もりと優しさ。田池留吉、アルバートの世界。お母さんの優しい、優しい中にあります。

その中に苦しみ喘ぎ続けてきた意識達を呼んでいます。

おいで、おいで。こっちだよ。こんなに温かいんだよ。心を向けてごらん。お母さんって呼んでごらん。もう帰るところがないつて泣くこともなかつたんだ。早くおいで。喜びの世界、広い、広い世界が待つてゐる。たくさんの仲間達が待つてゐる。

たくさんの仲間といつても、もちろん、目に見えません。心で感じていくだけ。感じていけばいくほど、嬉しい、嬉しいつて、温かいねつて、いつしょだね、ありがとうつて、心に響いてくる。それが私達の住んでゐる世界。本当の私達の世界。

肉を持つてゐるときにあること、できること、それは、肉を持つていなくとも同じ。そういうふうになつてこなければ、心で学んでいるとは言えません。

いわんや、肉を持つてゐるときにはしない、できないでは、とてもとも自分の行く先是語るに忍びません。私はそう感じています。

地獄の自分をしつかりと見て感じて受け入れていくために生まれてくるのに、それをしないでごまかしていく人生は、もう、さようなら、私は私にそう決めてきました。

一四六、意識の世界は、言うまでもなく目に見えない世界のことを言います。心で感じる世界のことを言います。

言葉はいくらでも並べることができます。しかし、内容は言葉では判断できません。波動です。心の向け先です。

だから、やはり最も大切なのは、自分の心を見るということでしょう。

目に見えない世界のことは、極端な言い方をすれば言つた者勝ちというところは無きにしも非ずです。

言葉をつかまえていては本筋は見えません。

そんなことよりも、それぞれの心に確かにある真実を、自分の心を見ることにより自分の心で分かることです。

そして、本当に心を見て、自分の心で感じていけば、波動が分かります。言葉に感銘を受けるのではなく、そこにある言葉から流れてくる波動、ひいてはその波動を流している存在が、真実を語っているのかどうなのか、それはふつと心を向ければ自分の心に響いてきます。

そして、それがどうなのかは、形でも証明されていきます。昼と夜が逆の生活などして

いない。だらしない生活はしていない。自分の周りに争い事はない。本当に心を見ていいけば、見ていつたならば、そんな生活などできるはずはないのです。まずは形からでもそういうふうになってしまいます。

一四七、心の向け先をきちんと定めた瞑想は、ただ心の中に静かな喜びが広がっていきます。温かい温もりの中にある自分を感じます。

瞑想は喜びです。自分の世界を知る瞑想の時間は喜びです。

温かい温もりの中に心を向けて自分を語るとき、私は本当に幸せだと思います。

自分を思えることは喜びです。自分を感じていけることは喜びです。

自分を語り、そしてまた、自分に語つていけることが喜びです。

自分を語ることもできずに、また自分に語つてあげることもできないで、ただ沈んできた過去からの時間を思えば、意識の私は様変わりに変わったことに、ただただありがとうの思います。

自分の中の温もりに触れたことは、私の中で絶対に変わることのない事実です。私の肉がどうあらうと、何と言おうとも、私の中は、私自身は決して揺らがずに不動です。

確かに、肉は不確かなものです。その不確かな肉に私は私の思いを日々、瞑想をする中で伝えていきます。私の喜びを伝えていきます。

肉は所詮愚か者。しかし、今の肉は肉でない私に思いを向ける喜びを知りました。肉を持つている自分と持っていない自分のどちらも感じながら、実は、肉のない私を固く信じています。肉がどのように存在して、肉はどのように心を向けていけばいいのか、もうそれはしつかりとしたものです。だから、私は何も思い案ずることはないのです。

心を向けることを会得し、合わすことを会得しました。

あとは、肉の生活の時間の中で、ただ肉は流れるままに存在していけばいいだけ。本当のことを知る、知ったということはすごいことでした。

一四八、私の中心は、言うまでもなく学びです。中の私はまさにそれだけです。

肉を喜ばせ、楽しませることが肉の喜びと幸せだと思つてきた私に、中の私は伝えてくれました。

中の私の喜びを知らない限り、肉は喜びと幸せを持続できない。

瞬間感じた喜びや幸せは、すぐに次の喜びと幸せを求めていくし、その喜びと幸せは、必ず空虚な思いをひも付きであなたに感じさせるだろう。

どこか冷めた思いで喜びを感じ、幸せを感じ、心の底から喜べない自分に出会っているはずだ。

あなたは知つていて。今、感じている喜びや幸せは違うと。だから、あなたは、必死になつて、本当の喜びと幸せを探してきましたはずだ。この世のどこかに必ず真実はあると。

そんな思いを抱えながら、あなたは田池留吉と出会つた。セミナー会場で出会つた。

実はもうそれで私の思いは半ば実現したのも同然だつた。肉を学びに運んでくれさえすれば、あとは私がどんどんこの肉を通して学んでいけるから。いずれ、この肉は私の思いを

心に感じていく日がやつてくるだろう。肉の厚い蓋を外して、私がどんどん出ていくことを楽しみにしながらの学びの年月は本当に喜びだった。楽しかった。肉を通して、どんどん私が解き放たれる喜びと幸せを味わせていただいた。

そして、これからは、もう真っ直ぐに前を向いて突き進んでいけばいいところまで漕ぎ付けた。肉よ、ありがとう。

私は、今は中の私をしっかりと信じています。肉を持たない私が私だとはつきりと感じています。中の私の揺らぎのない真っ直ぐな思いに、肉は幾度となく励まされ、元気づけられています。私は私とともに存在している喜びを瞑想の中で感じています。だから、肉の私にとつて、瞑想をする時間を持つこと、それ 자체がもう喜びなんです。私が私と出会えるから。私は私に伝えてくれるから。本当の優しさと温もりを伝えてくれます。

一四九、意識の私は語ります。

私は、今世の肉を通して、一応の成果を上げました。ある程度の達成感はあります。あとは、どれだけより真実に近づいていくかだけです。それはひとえにこれから自分にかかるからです。真実に近づいていけばいくほど、私の心の世界は広がっていきます。それが私の楽しみとなっています。それが私の意識の世界の現状です。

だから、今世の肉を離したあの私は、それまでの肉を離したあの私とは全く違っています。

私は学んでまいりました。私の方向は揺るぎのないもの、全くぶれはありません。

だから、肉も幸せなはずです。目を閉じてふつと瞑想状態になれば、私が響いてくるからです。私は、田池留吉、アルバートとともにある温もりの意識です。意識の流れをしっかりと把握し、私の中はすべてその意識の流れとともににあることを確認しています。

そのことを、肉は瞑想を通して感じています。

私は、自分の中に温もりが、本当の安らぎがあることを知りました。自分は喜びのエネルギーであることを知りました。

肉がない状態の私を、肉に伝えました。心に伝えました。

そして、肉のすることは、瞑想だけだと伝えました。瞑想を重ねていけばそれでいい、そ

ういうところまで私の意識の世界は到達していることを肉に伝えています。

だから、肉よ案ずることはない。心の命ずるままに肉は流していけばいいとも伝えました。なぜならば、その方向は真に正しいから。

一五〇、自分で結果を出し、その結果を見て、また自分で歩き始める。

すべてが自分と自分の世界の出来事。

自分に肉を持たせ、自分を学んでいくことは、本当に自分が愛だからできることでした。

自分以外に何もない世界。それが意識の世界。その自分と真向かいになり、本当の喜びと温もりの自分どんどん出会っていくことを学び、証明してきた今世です。

心に響く確かな世界、決して消え去ることのない確かな世界。

ともにある喜びをどこまでも私に伝えてくれます。

ありがとうが響いてきます。私の中から響いてきます。これが私の現実。私を感じているから私は幸せです。

一五一、正しい瞑想、これをしようとするならば、肉がどのような状態になれば、まず正しい瞑想の入り口に立てるか、実践すれば分かります。

生活のリズムは自ずと整つてくるのです。

乱れた肉の生活の中から、正しい瞑想なんてできるわけはありません。

自分の心を中に向けるには、ゆつたりとした時間の中で、手も足も、そう、身体も心も伸び伸びとした中で、楽しんで自分を見つめることができる環境設定は必要です。

せかせかと時間を細切れにした生活では、学びをしているようでしていないと私はいます。だから、ゆつたりとした時間が自分に取れる、ゆつたりとした気持ちで自分と向かい合える、これほどの贅沢はないのです。

瞑想をして本当に喜びを感じていけば、本当の肉の喜びも楽しみも分かつてきます。本当の意味で肉の生活を楽しんでいけます。

それは肝腎要かんじんかなめの部分がしつかりとしているから、肉は適当に楽しんでいけるのです。肉も楽しくなければ、遊びに対する意欲も湧かないと思います。

一五二、私は、今、田池留吉、アルバートのほうに心を向けて瞑想をしています。瞑想の中で感じじる世界、それはとても広い、広い世界です。

ああしかし、田池留吉は語ります。

もつと、もつと私のほうに心を向けなさい。そうすれば、あなたの中は、もつと、もつと広がっていきますよ。私のほうに心を向けていけばいくほど、あなたの世界は広がっていきます。その楽しみ、喜びをどうぞ、心で感じていってください。

私の肉がある間、そして肉がなくても、あなたは私を呼び、私とともににあることを感じるのです。その喜びが広がっていきます。

私を呼べばいいんです。田池留吉、アルバートと心を向ければ、私は応えます。あなたの心の中で応えます。

このように私は応えているでしょう。

はい、しつかりと心を向ける喜びを、心の中の私を語つていきなさい。

温かい温もりがあなたです。温かい広がりがあなたです。

田池留吉、アルバートの世界、宇宙を呼んでいくことがすべてです。

限りなく広がっていく私の世界。静かに力強く広がっていく私の世界。

私は肉を持ちながら、肉を外しながら、この世界をともに広げてまいります。田池留吉、アルバート。ともにある喜びを今、心で感じています。

一五三、瞑想とは、田池留吉、アルバートを思うことです。

それ以外の瞑想は本当はありません。だから、田池留吉、アルバートを思う瞑想を知らない人達、やっていない人達は、間違いなく肉を離せば、固まつた状態です。これは間違いがないことです。

そのことを、死後の自分と語るということをされて分かればいいのではないでしようか。

今、死後の自分と語りなさいと言われていることは、本当に優しい、優しい呼びかけなんです。

できないとか、分からぬとかでごまかさずに、どうぞ、実践してください。

みんな、いざれはその肉を置いていきます。その時まで、自分に誠実に向かい合いましょう。それで、未来が明るく開けていくということは、なかなか難しいかもしませんが、せ

つかくお母さんに生んでいただいたんだから、今を大切に、そして、自分を本当に大切にすべきなのではないでしょうか。

私自身は、田池留吉、アルバートに心を向け瞑想をすれば、自ずと宇宙と語り合っていることを感じています。

瞑想は、宇宙と語る、つまり、自分と語ることができる時間です。だから、瞑想の時間は喜びなんです。

飾らない自分がどんどん出てきて、どんどん自分を語り、どんどん自分にメッセージを送る。優しい温もりの中で、心を広げていける世界。そんな世界に自分をいざなつていける、それが喜びでなくて何なのでしょうか。

肉を持っているときに、田池留吉、アルバートを思える幸せ。

そして、肉を持っていないときに、田池留吉、アルバートを思える幸せ。それを自分で確信できればいいのです。そうなつて初めて、明るい未来の展望が開けてきます。もちろん、肉も幸せは言うまでもありません。

一五四、私は、私の勉強をするために、この三次元にやつてきたことを、ようやく、今世の肉を通して自分に伝えることができました。

私は、それを本当に喜んでいます。

そして、これからも、私は私の勉強をするために存在していけることを喜んでいます。私は幸せです。

その喜びと幸せは波動として必ず流れていくから、意識の世界にどんどん変革が起こります。

田池留吉、アルバートを思えば思うほど、喜びのパワーが全開していく過程を経ていくのです。だから、私は、田池留吉、アルバートを思つていればいいだけなんです。本当にそれだけなんです。それだけで温もりと喜びの世界が広がつていくから、私は、その中に自分をいざなつていくだけです。そうして、私は、私とともにこれからも喜びの中で存在し続けるのです。

今世の肉を通し、意識の変革を見た私には、三次元での転生がみんなプラスに転じました。その結果を携えて二五〇年後を通過していきます。

決して留まることのない真実への歩み。自分で喜んで歩み続けていくのです。

一五五、苦しみから喜びへ変わつていった意識の世界。

苦しみが永遠に続いていくと思ってきた意識の世界に変革が起こつたのです。今世、出会うべくして出会つて、変革が現実になりました。本当にすごいことでした。

光と闇が出会つて、一つになつて意識の世界に働きかけていく、すごいことだと思います。たつた一つの肉を通して学ばせていただいたこと、その喜びは、どんなに言葉を探しても見つかりません。ただただ、ありがとうございましたということです。私は自分が温もりであり、喜びであることを本当に心から知りました。

私は、これからもずっと宇宙とともに歩みを進めていくだけです。

肉がある今も、ないときも、限りなく広がつていく私の中の宇宙、その意識達とともに存在し、そして時が来れば、その宇宙達とともに、最後の肉を持ちます。

その肉を活用して、私は一気に意識の流れの計画を推し進めています。

意識の流れを確実に把握し、その流れとともににある喜びの中に、永遠に存在していける喜びを、瞑想の中で感じています。

一五六、まだ遠い先の話としているあなたの死。しかし、五年、十年はあつという間に過ぎ去つていきます。

これから、あなたのその肉がある間に、どれだけのことを自分に伝えることができるでしょうか。

あなたは、その肉を外したあと、自分と対話できる、自分に温もりと喜びを伝えることができると思つていますか。

第一に、今、肉を持つてゐるときに、本当に田池留吉、アルバートに心を向け、瞑想をしているのでしょうか。

今、ホームページを見れば、至るところに、瞑想という文字があります。

これはどういうことなのでしょうか。

生活の一部に学びがあるのでないことを、これらの時間の中で自分で確認していくください。

一五七、自分で傷ついて、頭を打つて、ボロボロになつて、苦しんで、苦しんだ末に自分で気付くことがある。しかし、その気付きはどうやら間違っていたらしい。だから、性懲りもなく、何度も何度も同じことを繰り返す。何度も繰り返しても自分はまだ暗闇の底に沈んだまま。

私は、こんな地獄の転生から抜け出しました。それを確認できた今世でした。田池留吉、アルバートの意識と出会えたということはそういうことでした。だから、私の未来は明るいです。それも薄らぼんやりではあります。

「日々、半歩でも一步でも私に近づいてきなさい。」

嬉しい、嬉しいメッセージをくれました。

瞑想は喜びです。私に限りない喜びを伝えてくれます。深くて深い温もりの中に私はあります。しつかりとした思いの中で、私は自分と語ることがたまらなく嬉しいです。

一五八、私の思いを聞いてください。アルバート、私の思いを聞いてください。

私は今、とても幸せです。私はアルバートを思い瞑想をしています。田池留吉を思い瞑想をしています。

ああ、田池留吉、アルバートの宇宙とともに歩いていく私がございます。私は今、とても幸せです。心を向けることが喜びなんです。瞑想をして、心を向けることが喜びです。

私の中にどんどん語つてくる心があります。意識があります。宇宙達があります。私は、その宇宙達に今、喜びを伝えています。宇宙達からも喜びを返していただいています。

ともにともに歩いていこうという思いをしつかりと確かめ合いながら、私は、ここから出発していくんだと確認しています。嬉しいです。

私の世界が喜びに満ち溢れているのを感じます。

温かい温もりの中にあつた私の世界でした。田池留吉、アルバートの世界の中に私は一つになつて溶け込んでいくことを感じます。

日々、半歩でも一步でも私に近づいてきなさい、その思い、その波動、そのエネルギー、ああ、私はとても嬉しく、嬉しく受け取りました。嬉しいです。一步、一步近づいていけることは喜びです。

私の中にある喜びが大きく、大きくなつていきます。私はこの喜びを感じながら、これから的时间を過ごしてまいります。

田池留吉の心、アルバートの心、この心を一つにして、私はともに歩いていける。私は喜びです。

お母さん、ありがとうございます。お母さん、ありがとうございます。心より、ありがとうございます。

長き、長き年月、長き、長き時間、私に肉体をくれました。私に肉体をくださった母の意識すべてにありがとうございました。私に肉体をくださった母の

私はこの思いを遙か、遙か宇宙に向けています。喜びのエネルギーを向けています。

私の思いを宇宙達が受け取つてくれていることを感じます。宇宙が変わつていく喜びを感じています。

死後の自分と対話するということは、自分がどんな存在であるのかが心で本当に分つていなければできません。

私は、自分は喜びのエネルギーであると確信しています。

だから、私はこの肉を外したあとは、自分の意識の世界と対話できるのです。自分の培つてきたエネルギーを受け入れていけるのです。

宇宙達と交信できるのです。もちろん、それは、田池留吉、アルバートの世界が厳然とあることを感じているからです。

一五九、瞑想より

私は喜びのエネルギーです。宇宙を喜びへ導くエネルギーです。私に思いを向けていてください。

私はこうして、今、田池留吉という一つの肉を通して、宇宙へ喜びを伝えにやつてきました。心の中に母の温もりを思い起こしていくことを伝えてきました。

田池留吉という肉を持つことにより、私はこの地球上に意識を具現化したのです。ともに帰りましようと伝えにきました。次元を超えてともに帰りましようと、すべての宇宙に伝えにきた意識です。

喜びのエネルギーです。母なる宇宙から私は喜びのエネルギーを伝えにやつてきました。温もりこそすべてです。喜びの源を私はあなた達に知つていただきたかったのです。

心を見つめていきなさい。ご自分のエネルギーを心に知り、そのエネルギーをご自分で包んでいくのです。優しさと温もりを伝えていくんです。私はこの肉を通して伝えてまいりました。

今、私は心より伝えます。

田池留吉の肉、アルバートの肉とともに一つになり、心の中から発信できる喜びを私は伝えたいです。

これから年の年月、からの時間、この地球上に起こりくる出来事を通して、すべての意識達に伝えていくエネルギーです。

宇宙が変わっていくことを伝えてきました。さらなる喜びを伝えていきます。私達は次元を超えてやつてきた、私達の思いを伝えていきたいと思います。

心より受けていってください。苦しい意識達が、どんどん心に救いを、助けを求めてくるでしょう。心を開いて私達の思いを伝えなさい。

「私達は喜びのエネルギーでした。私達は温もりのエネルギーでした。」
宇宙へ帰つていく私達の本来の喜びを伝えていくのです。

「苦しみ続けてきたことをもうやめましょう。心を見つめてください。
心の中にある喜びをもう一度、もう一度、蘇らせてください。
そのようにメッセージを送つてください。」

私達は今、喜びの道を歩いています。

苦しいところから、喜びの未来へ、この道が開けていくことを、私達は伝えてまいります。
心よりこの思いを受け止めていつてください。

この思いがすべてを変えてまいります。喜びのエネルギーがすべてを変えていくのです。

一六〇、私は塩川香世の意識です。私は、本当に喜びの学びをさせていただいています。私の
意識の世界を一つの方向に向ける、ただその学びをさせていただいています。嬉しいです。

心を向ければ向けるほど、私の意識の世界が変わっていくことを、これから的时间の中で、
本当に心に感じていくでしよう。

田池留吉、アルバート、あなたが肉を持ち、このように地球上に降りてきてくれたことを、私は本当に心から喜んでいます。

私もまた今の肉を持ち、このように学ばせていただいています。

すごい世界を広げてきた私の中です。暗闇の中で、本当に暗闇の中で、沈みに沈みに沈んできた、闘いに明け暮れてきた、私の意識の世界が、このように光溢れる世界へ戻つていただける今世という時間と空間をいただいたことが、本当に喜びなんです。

私は、この今の一つの肉を通して、田池留吉、アルバートという私の真実へ心を向ける、そのようなチャンスを本当に得ています。

嬉しいです。ただただ嬉しいです。私の中にある喜び、温もり、広がり、優しさ、そういうものを、私はこの心の中に本当にしつかりと、しつかりと広げて、この心を二五〇年、三〇〇年、そして、永遠に広げてまいります。

それが私との約束でした。田池留吉、アルバートとの約束でした。お母さんとの約束でした。それを今、この肉を通して語っています。この思い、私の思いを、どうぞ、肉よ、受けさせてください。

愚かな肉よ、私の思いを受けていてください。田池留吉、アルバートのほうにしつか

りと心を向ける、そのことを、ただただひたすら、ただただひたすらにやつていつてください。

一六一、学びに集つてきたというのは、自らの計画です。

ただ、学びに集つてきたから学んでいるとは限りません。

しかし、集つてきたというのは、学ぼう、学びたい、自分を知りたい、変えていきたいと切望してきたということです。それは、どなたも例外ではありません。

そして、今世学びに集つてきた人達は、本当に大きなチャンスを自ら用意しました。

そのチャンスは、どれだけ大きいかと言えば、おそらく、セミナーに集えた人達は、今世にそれぞれの計画、予定のところまで到達しなければ、これから転生の時間の中で、学ぶことは難しいだろうし、ということは、一二五〇年後に繋がっていくことは難しい、そういうことです。

皆さん、言えば悠長です。

今世、田池留吉と出会い、セミナーに集つたから、意識の流れに自動的に乗つていてるなんて、思わないでください。

自らの救済は自らでしかできません。

逆に言えば、今世学びに触れていくなくても、そういう意識達は、その計画で、自らを次元移行という意識の流れに乗せていく計画なんです。

これから時間の中で、自らを知っていく転生は、だから、とても厳しいです。しかし、そういう人達は、だからこそ、二五〇年後に私達と出会い、自分の意識の世界に大きな衝撃を受けて変わつていけるということです。

一六二、あなたの内で自己供養と思い、自分の中を振り返ってみてください。

田池留吉、心の中に私が蘇ってきます。温もり溢れる私、喜び溢れる私が蘇ってきます。
私はこの私を信じていけばよかったです。すべてがここから出発でした。自己供養の大切さ、自己供養の喜び、自己供養の大きさ、心に感じています。

田池留吉、アルバート、ありがとうございます。自己供養に努めてまいります。私の中の優しさ、温もりで私自身をどんどん包んでいくことを私は、肉を持ちながら、そして肉が

なくても、このようにさせていただいています。

私の意識の世界を語らせていただきました。肉がない私は、すべての意識達を心に迎え入れ、この優しさと温もりと喜びを伝えてまいります。

心が広がっていく喜びを伝えてまいります。

自己供養とは、肉を持たずにできることでございました。そして、それが私の喜びでした。自己供養は、これから、ずっと、ずっと続いていくことでした。

喜びの道にある私は、自己供養とともに歩んでいけることを確認しています。

一六三、母の意識、つまり、温もりに反逆してきた心について。

田池留吉は母親の反省をしなさいとまず伝えました。

それは、私達の心の中に母、つまり、温もりに対して反逆してきた思いが、ずつしりとぎつしりとあつたからです。その温もりに対する反逆する心、それが他力の道へ走らせました。他力の心は、恐ろしい心です。

他力の心は破壊、破滅に繋がっていく心です。

世界人類の平和のために、皆さんのが楽しく明るく、すべての人達に幸あれと、そのため
に神、仏、宇宙のパワーに思いを向ける心、他力の心、これほど恐ろしいものはありません。

それが母、つまり、温もりに反逆する心です。

それが分からなくなってしまったんです。その分からなくなってしまった心を思い起こ
すために、田池留吉は母親の反省を伝えてきました。

お母さんにしてもらったこと、してあげたこと、お母さんがしてくれなかつたこと、小
さな頃から、今の母親との繋がりの中で、自分の心に出てくる思いを振り返つていく、見つ
めていく、そのことをまずやりなさいと田池留吉は伝えてくれました。

温もりを捨て去つた心、温もりに反逆してきた心、肉を持つすべての意識達がその心を
広げ、今の今までやつてきました。これからもその心を持ち続けます。

しかし、ここにアマテラスの意識は目覚め、それが本当に間違いだつたことを心で知り
ました。アマテラスの心は今、大きな喜びの道へ向いて、一步、二歩、三歩…、その歩みを
確実に進めています。

私は、そのアマテラスの心を、皆さんの中にある温もりに反逆してきた心を、しつ

かりと自分で受け止めてしまいとメッセージを送ります。

アマテラスの心に優しさと温もりを伝えていくことが、今世、日本人として生まれてきた大きな意味です。

日本人とは限りません。しかし、今という時間と空間の中に、日本人として肉を持つてきた意識達、しかも、その中で学びに集つてきた意識達は、本当に地に落ちているのです。そのことに自ら気づくために、アマテラスの思いが肉を持たせました。

そういうても、言い過ぎではありません。

皆さん、その自覚を少しでも深めてください。アマテラスの心を見つめ、アマテラスの心を喜びへと向けていかない限り、明るい未来は開けてこない現実を私は伝えたいです。

一六四、環境が整い、条件が整えば、自分の中のマグマがどつと噴き出す。

自分の中のブラックのエネルギーがどつと流れ出す。

それがこれまでの数々の転生でした。そして、今世、それをストップさせるために一つの肉を持ってきました、

環境が整い、条件が整つて、闇のエネルギーを噴き出すこれまでの転生を繰り返してはならない。そのために、私は、この肉を持ち、田池留吉の肉とともに学んでまいりました。

同じ繰り返しを決してしないように、いいえ、してはならなかつたのです。

私はその決意のもとで肉を持ち、これまで学んできました。

噴き出すマグマをどのように受け止めていけばいいのか、そして、それを本来の自分のエネルギーに変えていくにはどうすればいいのか、私は心で学んできました。
際限なく繰り返す心の中の爆発。

たくさんの意識達がその爆発とともに地獄の奥底へ落ちていきました。

地獄の奥底の苦しみを味わい続けてきた意識の世界。

ようやく、今というとき、それに歯止めがかかりました。

今世、学ばせていただいたことは、すごい出来事でした。本当にすごい出来事を体験しききました。

私は、今というときが、過去と未来の一点だと心に感じています。

今の私を感じています。今の私がすべてです。この私がどんどん成長していくにし

たがつて、私の世界は変わつていきます。今が変わつてくる、今という一点が変わつてくる。過去が変わり未来が変わつてくる。そんな今を心に体験できています。

心を一点に合わせ、私の中を見つめる、ただそれだけです。

一六五、私は私に言えます。私にありがとうございます。本当の自分の思いを遂行していく過程にある私をはつきりと感じています。

私の死後は、田池留吉、アルバートと語り合う、呼ぶことができると言つてきました。それは、私は自分が意識であるという確立があり、その私といつも対話している、それが私の今だからです。

今がすべて。私は今に生きています。二五〇年後も三〇〇年後も今です。

もちろん、それは過去とともににあるということです。

それを私は、言葉の上ではなくて、本当に現実のものとして自分で感じているのです。

私は、田池留吉、アルバートという真実の世界と絶対に今世出会うんだという決意で肉を持つてきたのです。

その思いは本当でした。だから今の私があります。だから私は私に言えます。本当にあります。どうと。りが

一六六、宇宙とともに次元移行を仕上げるために、私は二五〇年後に肉を持ちます。

肉を持たなければ、仕上げができないからです。

来世の肉は、今世以前の肉とは全く違います。そして、今世の肉は、過去と来世の肉の橋渡しでした。

来世に肉を持つ意味を、今世の肉はじっくりと味わっています。楽しんでいます。

私の人生とは何だったのか、人間とは何か、苦惱する私に私は、馬鹿野郎と中から突き上げてくるのです。中の私が一斉に噴き出すような肉と肉の環境を選び、そして、私は私を流していく喜びを存分に感じていきます。

今も、もちろん私が流れていく喜びの中になります。宇宙と思えば嬉しい。ともにあることを感じています。そして、自分というものの、その存在をさらに深めていくために、今、肉を持てる時間を用意していることが嬉しいです。

いつも私の中と対話し、そして、私が私に伝え、また伝えてもらい、今を共有していく喜び。二五〇年後、三〇〇年後などに関係がなく、私の中で永遠に続いていく喜びなんだ、今世の肉を通して学ばせていただいている。

一六七、死は突然やつてきます。

なぜ生まれてきたのかも知らずに、そして、自分の本当の姿を垣間見ることなく、肉を終えていく無念さを何度味わつていけばいいのでしょうか。

自分を知らずに時を過ごしていく冷たさを、今世、学びに集い、学び始めた人達の一人でも多くの方が心で知つていただきたいと思います。

私達は、自分を学ぶために生まれてきました。

温もりと喜びを捨て去った自分を本当に知るために生まれてきました。

そのために、それぞれの生涯の中で、様々な現象に出会つていきます。

すべては気付き、促しです。間違つてきた時間を経てきた自分への気付き、促しです。

そういうふうに、今、肉という形を持つている間に少しでも自分の心で感じることがで

きたならば、それはその人は本当に幸せなのです。

ただ、日が昇り、日が沈み、一日が過ぎていき、その中で、人生の喜びや苦難を幾度味わつていつても、それは決して自分の本当に望んできた人生ではないのです。

そういうことを、心で感じ始めるからです。

物に満たされ、人の優しさ、温もりに触れても、自分の本当の心に触れることがなく、生涯を閉じるという無念さ、冷たさが、自分で苦しめ続けます。

心を見ることを知らない人達、見ない人達に、自らを導いていく現象がこれからも起ります。

一六八、意識の流れは、今、宇宙とともに本当に滯りなく順調に流れています。

どうぞ、皆さん、田池留吉、アルバートを思い、宇宙を思つて瞑想をしていてください。心から宇宙を思い瞑想をしてください。

形の世界は崩れていく世界です。形あるものはいずれ消え去つていくのです。どんなに崩壊を止めようとしても、崩れていくことでしか気付いていけないことがあります。

気付き、促しは眞実の自分に帰つていこうとする心の叫びです。

心の叫びは、これからどんどんどんどん湧き起こってきます。

意識の流れが、本当に順調に蕭々と流れているからです。その喜びが崩壊をどんどん促していくのです。

私はさらに宇宙に思いを向けていきます。宇宙と呼ぶエネルギーを心から放出していきます。私の喜びです。喜びのエネルギーがさらに強く厚くなつていくでしよう。

一六九、母なる宇宙へ帰る道をただひたすらまつすぐに突き進んでいくこと、それが私の喜びです。

今世の肉をいただき、私の心中に母なる宇宙へ帰る道筋をしつかりとつけたことが喜びだと、私は語りました。本当にありがとうございます。私の思ひ

お母さん、ありがとうございます。今世の肉を本当にありがとうございます。私の思いをすべて聞き入れてくれました。私の願いをすべて受け入れてくれました。

過去からの私とともに、私は今、本当に喜びの道をまっすぐに淡々と歩き続けています。

今、私はその私に向けてメッセージを発します。

田池留吉、アルバート。田池留吉、アルバートへ心を向ける喜びが私の中にしつかりとあることを、私は私に伝えて います。

「ただただ心を向ける、合わせること、そのことをやり続けること。」

私は私に伝えて います。

ああ、田池留吉。心の中に喜びが湧いてきます。私は広がっていきます。私の中に優しい思いがどんどん出てくるんです。苦しい思いを包んでいく優しさ、温もり、これが私でした。田池留吉に心を向けているだけで私は私を包んでいきます。優しい温もりの中へいざなつていける私を感じています。

ああ、お母さん。お母さん、ありがとう。ありがとう。私は幸せです。嬉しいです。お母さん。

その人、田池留吉 第4巻（ホームページより）

2012年7月20日 第1版第1刷発行

編集／発行 U T A会

印刷／製本 モリモト印刷株式会社

落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。

© 2012 Printed in Japan